邑楽町告示第32号

平成22年第1回邑楽町議会臨時会を次のとおり招集する。

平成22年3月24日

邑楽町長 金子正一

1. 期 日 平成22年3月29日
2. 場 所 邑楽町役場 議 場
3. 件 名
 - 1 平成21年度邑楽町国民健康保険特別会計補正予算
 - 2 平成22年度邑楽町一般会計予算
 - 3 平成22年度邑楽町国民健康保険特別会計予算
 - 4 平成22年度邑楽町老人保健特別会計予算
 - 5 平成22年度邑楽町後期高齢者医療特別会計予算
 - 6 平成22年度邑楽町介護保険特別会計予算
 - 7 平成22年度邑楽町下水道事業特別会計予算
 - 8 平成22年度邑楽町学校給食事業特別会計予算
 - 9 平成22年度邑楽町水道事業会計予算

○応招・不応招議員

○応招議員（16名）

1番	小島陸夫	議員	2番	遠藤幸夫	議員
3番	大野貞夫	議員	5番	田部井健二	議員
6番	小沢泰治	議員	7番	山田晶子	議員
8番	岩崎律夫	議員	9番	加藤和久	議員
10番	小島幸典	議員	11番	立沢稔夫	議員
12番	小倉修	議員	13番	横山英雄	議員
14番	本間恵治	議員	15番	細谷博之	議員
16番	相場一夫	議員	17番	石井悦雄	議員

○不応招議員（なし）

平成22年第1回邑楽町議会臨時会議事日程

平成22年3月29日（月曜日） 午後1時30分開会

邑楽町議会議場

- 第 1 会議録署名議員の指名
- 第 2 会期の決定
- 第 3 議案第32号 平成21年度邑楽町国民健康保険特別会計補正予算
- 第 4 議案第33号 平成22年度邑楽町一般会計予算
- 第 5 議案第34号 平成22年度邑楽町国民健康保険特別会計予算
- 第 6 議案第35号 平成22年度邑楽町老人保健特別会計予算
- 第 7 議案第36号 平成22年度邑楽町後期高齢者医療特別会計予算
- 第 8 議案第37号 平成22年度邑楽町介護保険特別会計予算
- 第 9 議案第38号 平成22年度邑楽町下水道事業特別会計予算
- 第10 議案第39号 平成22年度邑楽町学校給食事業特別会計予算
- 第11 議案第40号 平成22年度邑楽町水道事業会計予算

○出席議員（16名）

1番	小島陸夫	議員	2番	遠藤幸夫	議員
3番	大野貞夫	議員	5番	田部井健二	議員
6番	小沢泰治	議員	7番	山田晶子	議員
8番	岩崎律夫	議員	9番	加藤和久	議員
10番	小島幸典	議員	11番	立沢稔夫	議員
12番	小倉修	議員	13番	横山英雄	議員
14番	本間恵治	議員	15番	細谷博之	議員
16番	相場一夫	議員	17番	石井悦雄	議員

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

金子正一	町長
河内登	教育長 職務代理者 学校教育課長
堀井隆	総務課長
立沢茂	企画課長
小島哲幸	税務課長
中村紀雄	産業振興課長 兼農業委員 事務局長
小倉章利	生活環境課長
神山均	保険年金課長
横山正行	土木課長
石井貞男	都市計画課長
増尾隆男	住民課長
諸井政行	福祉課長
飯塚勝一	会計管理者 兼会計課長
沼田正美	水道課長
大舩一	生涯学習課長

○職務のため議場に出席した者の職氏名

田	口	茂	雄	事	務	局	長
田	部	井	春	彦	書		記

◎開会及び開議の宣告

○相場一夫議長 ただいまから平成22年第1回邑楽町議会臨時会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

[午後 1時33分 開議]

◎諸般の報告

○相場一夫議長 日程に入る前に諸般の報告をします。

監査委員から監査結果の報告がありましたので、写しをお手元に配付しておきましたから、ご了承願います。

次に、今期臨時会に説明員として出席通知がありましたので、写しをお手元に配付しておきましたから、ご了承願います。

本日の議事日程は、配付したとおりであります。

◎日程第1 会議録署名議員の指名

○相場一夫議長 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、会議規則第117条の規定により、議長において、小沢泰治議員、山田晶子議員を指名いたします。

◎日程第2 会期の決定

○相場一夫議長 日程第2、会期の決定を議題とします。

お諮りします。今期臨時会の会期は、本日1日としたいと思えます。これにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○相場一夫議長 異議なしと認めます。

よって、会期は本日1日と決定しました。

◎日程第3 議案第32号 平成21年度邑楽町国民健康保険特別会計補正予算

○相場一夫議長 日程第3、議案第32号 平成21年度邑楽町国民健康保険特別会計補正予算を議題とします。

町長から提案理由の説明を求めます。

金子町長。

[金子正一町長登壇]

○金子正一町長 議案第32号 平成21年度邑楽町国民健康保険特別会計補正予算（第5号）について

提案理由の説明を申し上げます。

まずもって、国民健康保険特別会計補正予算（第4号）につきましては、非常に申しわけない事態となりまして、心からおわび申し上げます。まことに申しわけありませんでした。

今回の補正は、既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ2,737万8,000円を追加し、予算の総額を28億8,837万6,000円といたしたい次第であります。

歳入につきましては、65歳から74歳までの前期高齢者の偏在による保険者間の負担の不均衡を調整する前期高齢者交付金の再精査をさせていただき、2,737万8,000円の増額をお願いするものであります。

歳出につきましては、社会保険診療報酬支払基金への後期高齢者支援金等の支払額に不足が生じたという非常に申しわけない事態となりまして、2,737万8,000円の増額をお願いするものであります。

よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○相場一夫議長 これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

小倉議員。

○12番 小倉 修議員 過日の1年の中で、どの議会も大事なのでございますが、3月の当初予算を決める中で議会の中で、定例会で、教育委員の選定から始まり、そしてまた21年度の補正予算で、1年を11カ月で計算して何千万足りない、また補正を臨時会でやってくださいと。また、22年度の当初予算も撤回と。3月の定例会は何も残らず終わったという事態が起きたわけでございまして、そしてまたきょうの臨時会になったと。そして、その中で異動の内示が出たと。あなたが見込んでお願いをし、1年もたたない間で課長が異動、そしてまた担当の方も異動と。そういった事態が起きたと聞いておるわけでございますが、あなたは、就任をなさったときに、皆さん汗をかいて間違いを恐れずにと、大変立派な訓示をなさったと私は聞いておるわけでございます。こういった大変大事な定例会においてこういった不始末、あなた方執行部の不始末。その中で、議会をリードすべき人が、はっきりと言った中で注意もできず、不信任案を出され、7対7で、副議長裁決の中でこれが否決になったと。ありがとうございますと。今でも私はありがとうございますの意味がわからない。16名の中で7人が不信任ですよと、あなたはだめですよ、今回の定例会ではこれだけの不祥事が起きているのだと。近隣市町村も大分邑楽町のことを笑みを浮かべて笑っておると聞いております。この3,000万円近い、11カ月、1カ月残している。議会も議決をしていると。恥ずかしい話でございます。そして、早速いい機会だから人事を異動しましょうと。町長、あなたの責任はどうなるのですか。職員には挽回の機会も与えず、反省の機会も与えず、あいつは今回の補正で失敗したから異動になったのだと、一生ついて回る。自分の責任はどうなのですか。議会に上程したのはあなたですよ。あなたの責任を伺いましょう。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 お答えいたします。

職員の間違いということで、再精査の中でそのような状況が出てきたわけです。私の責任ということではありますが、今後そういうことがないように十分職員も指導し、私自身も襟を正して、そのようなことがないように努めていきたいと、そのように思っております。

○相場一夫議長 小倉議員。

○12番 小倉 修議員 職員には失敗を恐れずにと。私は、今職員は一番失敗を恐れているのではないかなと。全く逆な方向で職員は考えていると。単純な事務的ミスと、そういった内容の中で、あなたは何回もおっしゃっていましたが、町民から見ますれば全く単純なミスではない。大きな金額である。そして、我々も選挙で選ばれてきて、この臨時会を開かなければならない責任というもの執行部は重く感じてもらいたい。私は当然のことだと思います。失敗を恐れずにと、口では簡単に言えます。口先だけでは簡単に言えます。職員がこういった失敗をしたときに、一番考えなければならないのは、あなただと思います。町長が一番考えなければならない私は立場であると。話の中では町長の3カ月減俸だろうとか、6カ月の10%減俸だろうとか、そんな話もちらほらと今の桜と同じように出ているわけでございますけれども、あなたはそういったところは考えられないかどうか伺いましょう。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 今その責任の中で減俸というお話がありましたが、考えておりません。

○相場一夫議長 小倉議員。

○12番 小倉 修議員 先の邑楽町を考えると非常に不安になってくると。私も議員ですから、責任もありましょう。執行部のこれから間違いだらけ。議会も間違った議決をし、職員何人かに負担を与え、それで済む問題だと私は思っておりません。今までこういったことはなかったわけでございますけれども、こういった事態を考えますと、定例会もあつてないようなものだったと。これから先の邑楽町を考えると、執行部も間違いだらけ、議決機関も間違いだらけ。そしてまた、その議会を引っ張る方が何も考えていない。先行きが私は大変だなと、思いやられると。私もその中の1名でございます。

終わります。

○相場一夫議長 ほかに質疑ありませんか。

本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 町長が執行部の最高責任者ですね、先ほど12カ月の1カ月分の3,000万を落としてしまったために補正を組んで、きょうの議題に再上程をして認めてもらおうということで出しているわけですね。今までの経過を見ますと、所管の課長、そしてまた総務課長等が常任委員会へ来て、その間違いを申しわけなかったと言いました。町長は、一番最後に議場で謝罪したわけです。何か違っていませんか。本来であれば町長が謝罪をして、自分の部下の不祥事について

は、私がきちんと指導しますからというのがあなたの立場でしょう。それを部下に先に謝らせておいて最後に謝るなんて最低な人間ですよ。それだけその重さをちっとも感じていない。単純な計算のミスだとか、前の議会においては、かなり単純、単純と何度も言いましたよ。それは、会議録を見れば明白ですけども、そういう言い方をして、簡単なミスだと、とんでもないですよ。あつてはならないことをやってしまったわけでしょう。それも、やった人を責めるのではなくて、起きてしまったけれども、私がきちんと行って二度とないようにしますというのがあなたの役目なですよ。それが、言葉では簡単に謝りますけれども、あなたの腹の中と口とが違うのではないのですか。だからそういう態度に出るのです。人事のことでもそうです。あなたが抜てきをして課長にして1年余り、それをほかへ動かせばいいという問題ではないでしょう。1年やって頑張ったのだから、二度と起きないようにもう一年頑張ってくれというのがあなたの立場ですよ、本来であれば。それを形の上で動かせばそれで済むという問題ではないです。先ほど小倉議員が言ったように、動かされた人の立場もよく考えた上での人事異動をしないと、私は大変なことになると思いますよ。あなたが動けば動くほど、職員からのあなたの信頼関係は、どんどん崩れていっていると私は思っています。もう少し先を見据えてきちんとした人事もやるべきだと私は思います。そういう部分では、きちんとこの補正に当たって、あなたがきちんと謝罪をするべきです。先ほど冒頭で謝罪しましたけれども、私は、あなたが心の中から謝っているとは思っていません。口先だけですよ。それではあなたの下から皆さん支えてくださる職員の人たちが、私はかわいそうだと思います。きちんと改めて私は謝罪をしていただきたいと思います。失敗を恐れずなんてとんでもないです。失敗したら取り返しがつかないのです。ですから、きちんと繰り返し繰り返し精査をした中で、間違いのないようにやるのがあなたの役割ですよ。これからの審議される中にも、上程をしておいてそのまま取り消して、それで予算を通そうとしている。そういう科目も入っていますよ。何のために上程してきたのかわからないでしょう。教育委員のこともそうですよ。出しておいてやる前に取り下げて、それではみんなを引っ張っていく最高責任者たるあなたの存在というのは、何もなくなってしまうのではないですか。全部放棄しているのですよ、本当のこと言って。きちんと自分の意見を、主張を通して、皆さんを説得しながらでも貫こうという意思がちっとも見えないではないですか。その下についていく人は、どうしたらいいかわからないでしょう。その下で携わった人は、本当に大変なのです。何とかみんなに認めてもらおうと思って動いているやさきに取り下げられた。そんなそれではその下で一生懸命やろうとしている人の気持ちをまるっきり踏みにじっていることでしょう。よく考えて、私はきちんとした謝罪をするべきだと思います。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 これからそのようなことがないように十分正していきたいと思っております。大変申しわけありません。

○相場一夫議長 本間議員、質疑はいいですか。

ほかに質疑ありませんか。

遠藤幸夫議員。

○2番 遠藤幸夫議員 今回のこの補正の件につきましては、実は3,000万円からというのは、職員の平均給与でいうと年収の六、七年分に該当するのかな、そのぐらい多額かなという感じを受けております。そうした中で、今回ノーチェックで議会へ上程されるということにつきましては、これ前代未聞の事件かなという考えを持っております。また、そういったことを考えますと、今後未恐ろしいのかなという気もいたします。職員がこういった状況で、ノーチェックで上がってしまうということは、仮にですよ、故意にやろうとしても、これは今回はそうでなかったのでしょうか、故意にやろうとしても、ノーチェックで上がってくるというのは、大変危険なことだと私は感じております。そんなことからしますと、今回のこの件につきまして、町長のほうは、なぜこんなことが起きたのか。先ほどこれまでの話ですと、簡単に変更が生じたとか、精査した結果だというようなことでしたけれども、そういったことではなくて、なぜこんなことが起きたのか、いつだれがどうしてこうなったのか。また、その今回のこの件を見つけたのは、どこの時点でどういうふうな形で見つかったのかというような説明は、全く聞いておりません。それらについて、再発を防止する上でも、ぜひ議会のほうにもその起きた経過、またこの不都合が生じた、これを発見した経過につきまして、ぜひ説明をいただきたいと思えます。

○相場一夫議長 神山保険年金課長。

○神山 均保険年金課長 お答えをいたします。

まず、こちらにつきましては、発見につきましては、3月10日に承認をしていただきまして、その後予算の配当というような状況がございました。そのときに、予算の配当時に、その時点で発見をいたしましたというふうな状況がございました。そして、その後そのようなことで、これらの状況を確認したところ、この1カ月分につきまして不足したような事態と、そのようになったというふうな経過がございました。大変申しわけございませんでした。

以上でございます。

○相場一夫議長 遠藤議員。

○2番 遠藤幸夫議員 予算の配当時だということなのですが、だれがどんな形でこれ発見をしたのでしょうか。

○相場一夫議長 神山保険年金課長。

○神山 均保険年金課長 お答えをいたします。

こちらについては、今現在パソコン上というか、財務会計上で配当しているということございまして、その時点でエラーが出たというふうなことということで、総務課のほうから保険年金課のほうにそれらの連絡があったということから始まりました。

以上でございます。

○相場一夫議長 遠藤幸夫議員。

○2番 遠藤幸夫議員 総務課のほうでパソコン上でエラーが発生したと。それからこういったことが発覚したということですが、入力、その配当するまではわからなかったと。ぜひその辺につきましては、町長のほうからも、そういった入力をした時点でも、こういう大きなミスが起きないようにシステムをぜひつくっていただきたいなということがあります。

それと、今回のこの単純な計算のミスということなのですが、実際は単純な計算ミスということでは済まされないというふうに私は思います。単純な計算ミスというのは、実はこれは重大な過失なのです。簡単なミスというのは重大な過失であります。その重大な過失は、当然それに対する責任というものが当然出てくるわけですが、特にその監督責任について、先ほどのお話ですと、特に自分自身に責任、そういった責任を課せるようなことは考えていないというお話ですけれども、実際は今言ったように、単純な計算ミスが重大な過失であるということからすれば、そんなわけには私はいかないのかなという気がいたします。それと、特に町長も、町長になってもう3年目というのですが、何か年々職員の士気が低下しているかなというような気がいたします。特に、今回の議会の関係では、こういったこの件もそうですが、きょうのこの議案の中も、さらにまた正誤表が配られると。何か正誤表もたくさんあるな。町長は一生懸命反省しているのでしょうけれども、結果的にこういったミスが次から次へと出ているということがありますが、その辺も踏まえてもう一度この重大な過失についての責任について、町長の考え方をお聞きしたいと思います。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 先ほど担当のほうからもその経緯を説明させていただきましたが、1つにはそのチェック機能が甘かったという部分があるようです。したがって、そのチェック体制については、やはり強固にしていかなければいけないのかなと。加えて今お話がありました、正誤表が配付されて、これも確かに議員が言われるとおりでもあります。職員のほうにも、私を含めて十分注意をして一生懸命に精励していきたいと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 よろしいですか。まとめてください。

遠藤幸夫議員。

○2番 遠藤幸夫議員 いずれにしても、このようなお粗末といえますか、単純なミスを犯さないように、間違いを犯さないように慎重に職務を遂行していただけるように、監督のほうもぜひお願いをしたいと思います。

以上です。

○相場一夫議長 ほかに質疑ありませんか。

横山議員。

○13番 横山英雄議員 町長は、最高責任者でありながらほとんど反省していませんね。前に言ったかどうかわかりませんが、私の友達に生徒指導やっていた高校のある先生がおりました。子

供が不祥事を起こしたときに親を呼びつけて、その親が若い先生に一生懸命勘弁してくださいと謝った、その子供は必ず立ち直る。しかし、親がうちのせがれは悪くないのだ、うちの子供は悪くない、学校の指導が悪い、そういうふうに関き直った親の子供は、大体途中で退学をしている。私も、若いときに、学校ではないですが、仕事上失敗をしたことがあります。私と5歳ぐらいしか年の変わらない人に、うちのおやじが一生懸命謝りました。それを見て、絶対におやじというのは、自分から見れば格好がいいものです。それが人前で謝る。二度とおやじにこういう思いはさせたくない、そう思って、それから一生懸命おやじに迷惑かけないように私もやってきましたけれども、あなたの今の今までの、小倉議員、本間議員、そして遠藤議員が言っている意味があなたには通じていないような気がする。真剣に、間違いは私が責任者だ、そう言って謝罪をするのが部下の信頼を得る1つの方法かなと思うのですが、もう一度聞かせてください。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 お答えいたします。

職員の過ちというのは私の責任でもあります。今後十分襟を正して、そのようなことがないように、職員ともども私も含めて努めていきたいと、こんなふうに思っておりますので、大変申しわけなく思っておりますが、今後もそのような形で努めていきたいと思っておりますので、よろしく願いをいたしたいと思っております。大変申しわけありません。

○相場一夫議長 横山議員、よろしいですか。

ほかに質疑ありませんか。

小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 邑楽町の議会が過去こういう予算の問題でこれだけ紛糾する、もめるということは、ないのではないかと思いますけれども、まずそれ以前に教育委員の選任の同意の件、もうその件を取り下げたということだけで、もう責任問題だと思います。これは非常に大きな問題で、当事者にとっても将来に影響しますし、それがまず大きな問題。これからは委員の選出については、大変かと思いますが、まずそれがあります。その件について。

また、町役場の機構改革について、なぜこの時期にしたか。邑楽町の状況は、情勢は、町長自身十分認識していると思うのです。そういう中で、来年度の予算が決まる議会に提出したか、提案したか。また、国民健康保険特別会計については、誤りが発生してしまった。そして、もろもろの件について、一般会計予算に至る中で、その予算を撤回したというその措置の仕方、その辺も間違っているものと思います。撤回しないでも済んだのではないかと思います。そういうことで、臨時会開いているわけですが、この3月5日からのごたごたの事件、こういうものについて、予算の件もそうです。機構改革の件もそうです。それについて、議会では今何人かの議員のお話の中、そのお答えの中でありましたが、町民に対してどのようにもろもろの件について町長説明していくか、裏表なく正直に、その辺をお伺いします。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 定例会の中では、多くの提案をした部分が、今議員が言われましたように、成立ができなかったということ。したがって、この点についてのいろいろな問題の責任というのは、重く受けとめておりますし、議員の皆さんには、本日上程をいたしておりますそれぞれの案件に対して、ぜひお認めをいただいて、そしてこれからの町執行を進めていきたいというふうに思っております。よろしくお願いを申し上げたいと思います。

○相場一夫議長 国民健康保険についての質疑をお願いします。

小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 いや、この3月9日から19日までのこの議案に関してのことなのです。先日の私一般質問でも町長から、いやそれは質問事項と違うということと言われましたけれども、とんでもないのです。関連しているのですから。そういうことで……

○相場一夫議長 国民健康保険のことについてお願いします。

○6番 小沢泰治議員 健康保険ということですが、とにかく関連しておりますので、次に進んでお話ししてもいいのですが、ここで質問させていただきますが、こういうことが起きたことに対して、今町長答えていただきました。私の最初の質問に全然答えになっていないと思います。全町民にどういう機会でどういうふうにこのごたごたを説明するかですよ。これからどうします、こうしますではないのです。こんなことが起きてしまったことについて私は問うているのです。お願いします。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 繰り返しになりますけれども、町民の皆さんにこれからの行政執行をしていく上で誤りがないような形でお願いしていくと、お認めをいただいて誤りのない行政執行をしていくということでご理解をいただくように努めていきたいと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 小沢議員。

○6番 小沢泰治議員 これからの誤りなきようではなくて、現実これを起こしてしまったわけですよ。起きてしまったわけですよ。教育委員選任の件から、機構改革からもろもろ起きて、これを撤回した、せねばならなかった。それを町民にどのように説明するか、詳しくお話しください。その件に、この件の誤りについての町長の町民に対する説明、それどのようにするか、お願いします。人の責任ではないのですよ。

〔何事か呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 静粛に願います。

金子町長。

○金子正一町長 繰り返しになりますけれども、そのことも含めて町民の方にいろいろ説明の中で機会があれば申し上げていきたいと思っています。

○相場一夫議長 ほかに質疑ありませんか。

まとめをお願いします。

小沢泰治議員。

○6番 小沢泰治議員 口が裂けても議会の運営上、あるいは議会としての認識の不足からこのようになったかもしれませんが、根本原因がどこにあるか、その辺についてしっかりと町民にみずから伝えていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○相場一夫議長 ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

小倉議員。

〔12番 小倉 修議員登壇〕

○12番 小倉 修議員 平成21年度邑楽町国民健康保険特別会計補正予算につきまして賛成の討論をいたします。

こんな賛成の討論は本当はしたくないのです。えらい赤恥の賛成討論でございますが、執行部の間違い、事務的な単純ミス、議会も間違った、間違ったことで可決をしておる。しかしながら、後期高齢者医療特別会計の中で、邑楽町だけが3,000万入らないということであれば、群馬県じゅうの大笑いになると。みっともない話の中、賛成をしなければならない議員の苦しさ、これはすべて執行部が悪い。何も無いことだ。しかしながら、これ以上群馬県じゅうに邑楽町の恥をさらすことはできません。

よって、私は仕方なく賛成討論といたします。

終わり。

○相場一夫議長 ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより議案第32号 平成21年度邑楽町国民健康保険特別会計補正予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○相場一夫議長 起立多数。

よって、議案第32号は原案のとおり可決されました。

○相場一夫議長 日程第4、議案第33号 平成22年度呂楽町一般会計予算を議題とします。

町長から提案理由の説明を求めます。

金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 平成22年度呂楽町一般会計予算を初め各会計予算につきましては、3月定例会におきまして課設置条例が可決成立しなかったこと等によりそごが生じたため、定例会での提案を撤回させていただきました。議員の皆様、町民の皆様大変ご迷惑、ご心配をおかけしてしまい、まことに申しわけなく思っております。

議案第33号 平成22年度呂楽町一般会計予算について、その大綱についてご説明申し上げ、提案理由とさせていただきます。

平成20年9月のリーマンショックに端を発した世界金融危機は、一部で「世界恐慌」とも言われる中、とりわけ我が国へ深刻な影響を及ぼしながら、現時点ではまだ終息の気配を見せておりません。

本年1月22日に閣議了解された「平成22年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度」によりますと、政府は、平成21年度の国内総生産の実質成長率はマイナス2.6%程度になると見込んでいます。また、国民の景気実感に近い名目成長率は、マイナス4.3%程度と、2年連続の急速な減少が見込まれています。雇用情勢も極めて厳しい状況にあり、総務省が発表した平成21年の年間平均完全失業率は、5.1%と6年ぶりに5%を超えました。同じく有効求人倍率は、0.47倍で、昭和38年の調査開始以来過去最低の数値となっています。

政府は、平成21年度中には経済が持ち直し、平成22年度は景気が緩やかに回復していく見込みとしており、確かに直近の各種指標では若干の改善も見られますが、決して楽観できる状況にないと思われまます。

これらの経済状況を受け、平成22年度の地方財政は、個人所得の大幅な減少や企業収益の急激な悪化等により、地方税収入や地方交付税の原資となる国税収入が急激に落ち込むと予想されます。その一方で、社会保障関係経費の自然増等が見込まれることから、財源不足が大幅に拡大する見込みです。

政府は、「地域主権改革」の第一歩として、地方が自由に使える財源をふやすため、地方交付税総額を対前年比で1兆733億円増額確保するとともに、当面の地方単独事業等の実施に必要な歳出として、地方財政計画を歳出に特別枠「地域活性化・雇用等臨時特例費」9,850億円（対前年度比実質4,850億円増）を計上しました。また、地方交付税の穴埋めとして地方が借り入れを行う臨時財政対策債も、前年度と比較して50%、約2兆6,000億円増加させる予定です。

以上のような状況を踏まえ、本町における平成22年度予算については、昨年度に引き続き次の3点に重点を置いて編成に当たりました。

第1に、経常経費等のさらなる削減や投資的経費の重点化を行い、効率的な財政運営へのより一層の転換を図ること。

第2に、町税等の自主財源が大きく減額することが見込まれる中、さまざまな補助制度等を積極的に活用するなど、依存財源の確保に努力すること。

第3に、町の立場で町民の福祉を守り、景気浮揚に貢献するため、積極的な施策を盛り込むこと。

こうした方針に基づいて調整いたしました平成22年度予算の詳細は、お手元の予算書のとおりであります。予算規模は、一般会計で、69億8,142万6,000円、前年度に比べ3億2,142万6,000円、4.8%の増額としました。

まず、歳入の増減額の大きなものを前年度との比較で申し上げますと、平成21年度に引き続き法人町民税の大幅な減収が見込まれることなどから、平成22年度の町税収入見込額は、2億8,306万8,000円、7.6%減としました。景気後退の影響から、地方消費税交付金は減少、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金等は、大幅な減少を見込んでいます。また、自動車のいわゆるグリーン税制の影響から、自動車重量譲与税等の地方譲与税及び自動車取得税交付金も、減収が予想されます。

一方、町税等をベースとする基準財政収入額の減少に伴って、国による地方財源の保障制度である地方交付税は、2億1,185万円、33.2%増を見込みました。また、実質的な地方交付税である臨時財政対策債も、1億9,000万円、50%増と大幅な増加を見込んでいます。

町債は、前年度と比較して1億9,430万円、47.1%増の6億710万円ですが、その大部分は先ほど述べました臨時財政対策債が占めております。

繰入金については、土地開発基金条例の一部改正に伴い、同基金から1億4,578万円の繰り入れを行うほか、減債基金、公共施設等整備基金及びふるさと振興基金から合わせて6,900万円の繰り入れを計上しました。財政調整基金については、行政改革に努めるとともに、地方交付税の加算措置など平成22年度の特異な事情もあって、平成3年度以来19年ぶりに、繰入金の計上を行わずに予算の編成を行うことができました。

次に、歳出について、平成22年度の主な新規施策を申し上げながら、前年度との比較も交えてご説明申し上げます。

歳出予算総額は、歳入と同様、3億2,142万6,000円、4.8%の増額となっております。歳出額の大きな変動要素といたしましては、国による子ども手当の創設がございます。本町におきましては、支給額4億7,281万円を計上いたしました。また、平成22年度の特徴的な歳出としましては、土地開発基金からの公共用地の買い戻し1億4,672万6,000円を計上いたしました。

子ども手当及び土地開発基金からの公共用地買い戻しの影響を控除した実質的な歳出予算額は、前年度と比較して約1億1,850万円の減であり、厳しい財政状況を考慮した緊縮型の予算となっております。人件費については、退職者の不補充等により、一般職で約4,380万円を減額しました。

その一方で、厳しい財政状況の中でも、企業の設備投資を促す企業立地奨励金や中小商工業者へ

の制度融資事業等を堅持し、地域経済の下支えを行う施策を盛り込みました。さらに、国の緊急雇用創出事業等も活用しながら、町が直接雇用する臨時職員の枠を拡大するなど、雇用環境の改善も考慮しております。また、特徴的な新規事業といたしまして、町村としては県内の他自治体に先駆けて、町消費生活センターを庁舎内に設置し、町民の皆様からの相談に応じてまいります。

住民・福祉関係では、引き続き住基カード発行手数料の無料化を実施するとともに、平成21年度途中から拡充した新型インフルエンザ等の感染症対策事業は、新年度においても年間を通して取り組んでまいります。地球環境対策事業については、一般住宅用太陽光発電の設置に対する補助事業を開始します。

農業関係では、町内1,000カ所の農用地土壌分析を町費で実施します。

土木関係では、町道幹線3号線、同25号線等の整備を推進し、交通弱者に配慮した道づくりを推進します。

教育関係では、中学校に2名の新たな相談員を配置し、児童生徒や保護者の不安や悩みの解決を手助けします。

教育用施設整備では、平成21年度からの繰り越し事業として、いよいよ学校給食センター建設に着手いたします。平成23年度の夏休み中の完成、第2学期からの配食を目指しています。

生涯学習関係では、中央公民館の整備を展望して、平成22年度から検討を開始するため、所要の予算措置を講じました。

以上、平成22年度一般会計予算の大綱について説明いたしました。冒頭申し上げましたとおり、景気回復の兆しがなかなか見えてこない我が国経済の中で、当町の財政状況もこれまで以上に厳しくなっていくことが予想されます。予算の執行に当たっては、最少の経費で最大の効果を上げるよう、基本に絶えず立ち返りながら、事務事業の見直しや合理化を進めてまいります。また、行政の透明性を高めながら、より高度化・専門化する事務事業に対応できるよう、職員のスキルの向上を図ります。特に、職員研修の充実、人事評価制度の試行等に関しては、節目節目でその効果を検証しながら、よりよいあり方の検討を進めていく所存であります。

町民の皆様と議員各位の一層のご支援とご協力を心からお願い申し上げ、平成22年度予算の提案理由といたします。

なお、詳細につきましては、担当課長をして説明いたさせますので、よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○相場一夫議長 暫時休憩します。

〔午後 2時28分 休憩〕

○相場一夫議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

〔午後 2時40分 再開〕

○相場一夫議長 これより各課長より補足説明をいただきます。

小島税務課長。

○小島哲幸税務課長 それでは、町税に関する部分のほうから補足説明を申し上げます。

お配りさせていただいてある予算書のほうでは、17、18ページのほうをまずごらんをいただきたいと存じます。1 款の町税、1 項町民税、1 目の個人でございます。前年度と比較しまして1 億1,728万円減の11億522万円を計上させていただきました。個人所得の大幅な落ち込みを想定してのものでございます。

続きまして、2 目の法人でございます。前年度と比較しまして1 億4,949万円減の9,940万円を計上させていただきました。景気低迷に伴う法人所得の落ち込みを想定してございます。

続きまして、2 項の固定資産税、1 目の固定資産税でございます。前年度より670万円減の19億3,875万円を計上させていただきました。法人等の償却資産の落ち込みを見込んだものでございます。

2 目の国有資産等所在市町村交付金及び納付金については、ほぼ前年度並みでございます。

3 項の軽自動車税、1 目の軽自動車税でございます。前年度と比較しまして142万7,000円増の5,542万7,000円を計上させていただきました。税率の大きい軽自動車の伸びが期待できることから若干の増となったものでございます。

次のページにお進みいただきまして、19ページ、20ページのほうをお願いをしたいと思います。

4 項の町たばこ税、1 目町たばこ税、前年度と比較しまして1,103万1,000円減の1 億4,400万円を計上させていただきました。本年10月にたばこの税率改定が予定されておりますけれども、健康志向等が強いことから、前年度を下回るという形での推計をいたしました。

5 項都市計画税でございます。1 目都市計画税、前年度と同額の1 億991万円を計上させていただきました。

以上でございます。

○相場一夫議長 堀井総務課長。

○堀井 隆総務課長 税以外の歳入につきまして説明させていただきます。

19ページ、20ページの下段からお願いいたします。

2 款地方譲与税、1 項地方揮発油譲与税、1 目地方揮発油譲与税につきましては、4,200万円を見込まさせていただきました。これは、21年度見込みの若干の減少でございます。

次に、21、22ページをお願いいたします。2 項自動車重量譲与税、1 目自動車重量譲与税、国税収入の4分の1が市町村に配布されるものでございます。1 億1,000万円計上いたしました。グリーン税制等の影響を配慮しての減額でございます。

3 款利子割交付金、1 項利子割交付金、1 目利子割交付金につきましては、預金利子のうちの市

町村に3%が配分されるものでございます。960万円、昨年度の見込みの20%減で計上いたしました。

4款配当割交付金、1項配当割交付金、1目配当割交付金については、上場株式配当に関する税ですけれども、130万円計上させていただきました。3分の1の計上です。21年度見込み等についても落ちているものですから、21年度の3分の1にしてあります。

5款株式等譲渡所得割交付金、1項株式等譲渡所得割交付金、1目株式等譲渡所得割交付金、株式譲渡所得の5%のうちの3分の2が市町村に来るもので、110万円を計上いたしました。21年度の見込みの約7割を見込んでおります。

23、24ページをお願いいたします。6款地方消費税交付金、1項地方消費税交付金、1目同じでございます。消費税5%のうち1%が地方消費税になります。2分の1が市町村に配分されます。2億2,200万円を計上いたしました。消費の減速を反映しての減でございます。

7款1項1目自動車取得税交付金については、県の自動車取得税のうちの70%が市町村に交付されるもので、21年度の見込みの9割を見込みました。4,400万円でございます。これもグリーン税制等の影響を配慮してのことでございます。

8款1項1目の地方特例交付金については、4,730万円の計上でございます。昨年度と比べて大幅に伸びておりますけれども、児童手当、グリーン税制、住民税の住宅控除、そして今回子ども手当の補てん分を見込んでの金額でございます。

次に、9款1項1目地方交付税8億4,985万円を見込まさせていただきました。税収の減による国の補てん分交付税でございます。

続きまして、25、26ページをお願いいたします。上から2番目、10款1項1目交通安全対策特別交付金、これは交通違反の反則金を3分の1市町村に交通安全対策に交付するものでございます。500万円を昨年同額見込んでおります。

次に、11款分担金及び負担金、2項負担金、1目民生費負担金9,068万9,000円を計上させていただきました。これにつきましては、保育所の保育料、養護老人ホームの入所者の負担金部分等でございます。

続きまして、27、28ページをお願いいたします。12款使用料及び手数料、1項使用料、これにつきましては、各民生使用料、衛生使用料等がございます。福祉センター寿荘の使用料57万6,000円、地域し尿処理施設の使用料1,570万円等を見込んでおります。

なお、7目の教育使用料2,369万4,000円につきましては、幼稚園使用料を計上してございます。

合計で使用料は、29、30ページになりますけれども、5,240万2,000円となります。

続きまして、31、32ページをお願いいたします。13款国庫支出金、1項国庫支出金、1目民生費国庫負担金につきましては5億148万8,000円です。保育所運営費負担金2,900万円、そして新しく5目に子ども手当負担金3億7,157万円が計上されております。

次に、飛びまして35、36ページお願いいたします。35ページの14款県支出金、1項県負担金、1目民生費県負担金1億1,664万9,000円につきましては、右の説明欄のほうを見ていただきたいのですが、4節の障害福祉費負担金4,233万7,000円、そして新設の5目の子ども手当負担金5,062万円、そして衛生費県負担金におきましては、保険基盤安定負担金のほうで4,750万1,000円の計上になっております。

次に、14款2項県補助金、同じページでございます。総務費県補助金につきましては、3節で緊急雇用創出事業補助金が7,071万5,000円を組んでおります。これは、21年度から3年間基金を活用してでの補助金でございます。邑楽町は44人分の申請をしてあります。

次に、37、38ページをお願いいたします。民生費県補助金については、1億4,138万7,000円を計上しております。節で申し上げますと、福祉医療費補助金については9,686万9,000円、障害関係で1,004万4,000円、児童福祉で3,059万5,000円となっております。

続きまして、39、40ページをお願いいたします。14款県支出金、3項県委託金、1目総務費委託金については、6,387万9,000円を計上しております。主に徴税費委託金となっております。

次のページをごらんください。次のページには、徴税費のほか統計調査費委託金887万2,000円、そして選挙費委託金1,471万9,000円が計上されております。県議会議員選挙と参議院議員選挙の執行事務経費がここに計上されております。

続きまして、43、44ページをお願いいたします。17款繰入金、1項基金繰入金、2目減債基金繰入金については、2,000万円の計上でございます。3目の公共施設等整備基金繰入金については3,000万円、4目のふるさと振興基金繰入金につきましては1,900万円、5目の土地開発基金繰入金については1億4,578万円の繰り入れ、合計2億1,478万1,000円の繰り入れとなっております。

45、46ページにつきましては、18款で繰越金、前年同額の5,000万円を計上してあります。

そして、47、48ページに移りまして、雑入では3,250万1,000円を計上してあります。

続きまして、歳出に移らせていただきます。53、54ページをお願いいたします。53、54ページです。1款1項1目議会費におきましては、1億700万5,000円を計上させていただきました。

2款1項1目総務管理費の一般管理費におきましては、3億7,789万2,000円の計上でございます。これの主なものとしましては、特別職と職員の人件費31名分、2億9,521万円並びに次のページにございます一般経費のほうで6,007万6,000円計上してあります。この中に臨時職員賃金、緊急雇用のもので賃金として含まれております。

次に、58ページをお願いいたします。丸の1つ目ですけれども、人事事務事業903万9,000円につきましては、人事関係の事務経費ですけれども、新たにここに一番最後、職員研修負担金として49万円計上してあります。自治大学校の研修費用として計上いたしました。その次の丸、文書費については1,016万7,000円です。法令だとか例規集の経費等に充てる経費でございます。

次の60ページをお願いいたします。契約検査事業では176万2,000円、76万5,000円の減です。秘

書事務事業におきましては153万3,000円でございます。昨年とほぼ同額となっております。

以上です。

○相場一夫議長 立沢企画課長。

○立沢 茂企画課長 59ページをお願いいたします。

予算書の59ページから始まります2目広報広聴費でございますが、前年度に対しまして460万7,000円減額の2,904万7,000円を予定させていただきました。広報広聴事業の取り組みといたしまして、町広報紙の「広報おうら」やくらしのカレンダーなど広報物の発行に要する経費など、また、62ページになりますが、屋外有線放送の維持管理に関する費用や、広聴事業としまして町づくり座談会、子ども議会などに関する費用など、この目に計上させていただきました。さらに、62ページの中段になりますが、情報関連事業といたしまして、情報の電子化を一層推進していくための経費を計上させていただきました。

以上でございます。

○相場一夫議長 飯塚会計課長。

○飯塚勝一会計管理者兼会計課長 63ページ、64ページをお開きください。

上段のほうですが、3目会計管理費について説明させていただきます。会計事務に係る一般経費として、需用費等30万8,000円を計上させていただきました。

以上でございます。よろしく申し上げます。

○相場一夫議長 堀井総務課長。

○堀井 隆総務課長 63ページ、64ページをお願いいたします。

4目の財産管理費2,675万4,000円を計上させていただきました。財産管理事業として2,149万8,000円、財産管理事業全体でその金額です。黒ぼちの1つ、財産管理事業、これが旧南保育園多目的センターの54万6,000円でございます。次に、黒ぼちの2個目、庁舎管理事業に1,453万3,000円でございます。この中には、光熱水費ですとかもろもろの庁舎を管理するための費用が入っております。そして、自動車管理事業として、一番下になります542万1,000円を計上しております。

そして、次の66ページをお願いします。町立集会所管理事業として、新中野の町立集会所の運営のために99万8,000円を計上しております。

財政調整基金については、利子収入を見込みまして72万1,000円でございます。

以上です。

○相場一夫議長 立沢企画課長。

○立沢 茂企画課長 同じページ下段からになりますけれども、6目企画費につきまして申し上げます。

前年度に対しまして132万5,000円減額の1,796万円を予定させていただきました。この目では、町づくりの推進に要する経費を初め、東毛広域市町村圏振興整備組合に対する経常経費の負担金な

ど、広域行政に関連する負担金などを計上させていただきました。

68ページになりますが、広域公共バス整備事業ですが、運行している2路線の運行経費を計上させていただきました。同じページの中段になりますが、総合計画策定事業の経費を計上させていただきました。邑楽町第五次総合計画は平成18年度に策定され、前期基本計画5年間で平成22年度で満了するため、策定後の社会情勢の変化、国、県の諸制度の変更及び計画の達成度合いなどを踏まえ、平成23年度から平成27年度までの5年間の後期基本計画の策定を行うための経費を計上させていただきます。

以上でございます。

○相場一夫議長 堀井総務課長。

○堀井 隆総務課長 7目の公平委員会費につきましては、前年度同額の5万7,000円です。報酬の3人分を見込んでおります。

8目の自治振興費については、行政区運営のための経費として2,837万3,000円を見込んでおります。報酬、報償、そして行政区への補助金等が主なものになっております。

以上です。

○相場一夫議長 小倉生活環境課長。

○小倉章利生活環境課長 69ページをお願いいたします。

2款総務費、1項総務管理費、9目交通対策費でございます。この目では交通安全対策全般について1,463万6,000円を計上させていただきました。

同じく71ページ上段をお願いいたします。10目防犯費でございますが、対前年度15万9,000円の増額の640万4,000円を計上させていただきました。防犯灯の設置や安全安心の町づくりの推進をいたしてまいります。

以上です。

○相場一夫議長 増尾住民課長。

○増尾隆男住民課長 同じページの11目住民相談費78万1,000円計上させていただきました。内容は、弁護士による月1回の無料法律相談及び人権擁護委員や行政相談員の相談活動費でございます。

続きまして、12目諸費につきましては、72ページ説明欄の自衛官募集事業4万5,000円は、前年と同額です。

以上でございます。

○相場一夫議長 堀井総務課長。

○堀井 隆総務課長 引き続きまして諸費の一般経費でございますけれども、10万1,000円を見積もらせていただきました。弁護士謝礼の10万円、そして訴訟を抱えておりませんので、委託料につきましては、存目の1,000円でございます。

以上です。

○相場一夫議長 小島税務課長。

○小島哲幸税務課長 続きまして、73ページ、74ページのほうをお開きをいただきたいと思います。

2項徴税费、1目税務総務費、前年度と比較しまして712万6,000円増の1億5,660万6,000円を計上させていただきました。職員増に伴う人件費の増でございます。

引き続きまして、2目の賦課徴収費、75、76ページまでございますが、前年度と比較しまして748万9,000円増の7,439万9,000円を計上させていただきました。税務の賦課徴収に係る電算に対する委託料、それから2人おります徴収嘱託員の経費等をここで経理しているものでございます。

以上でございます。

○相場一夫議長 増尾住民課長。

○増尾隆男住民課長 75ページお願いいたします。75ページの中段から80ページの上段までの1目戸籍住民基本台帳費1億359万9,000円計上させていただきました。対前年度比で1,351万1,000円の増額であります。増額の主なものは、人事異動に伴う人件費であります。

以上でございます。

○相場一夫議長 堀井総務課長。

○堀井 隆総務課長 79ページ、80ページをお願いいたします。

2款総務費、4項選挙費、1目選挙管理委員会費256万5,000円でございます。そして、選挙啓発については、昨年同額の7万9,000円、参議院議員選挙経費として1,386万5,000円を計上させていただいております。そして、次の81ページの上段ですけれども、県議会議員選挙費として469万5,000円を計上してあります。

以上です。

○相場一夫議長 立沢企画課長。

○立沢 茂企画課長 同じページですけれども、2款総務費、5項統計調査費につきまして申し上げます。

統計調査費につきましては、595万9,000円増額の908万4,000円を予定させていただきました。この目におきましては、例年と同様に実施されます経常統計調査に要する費用と、5年ごとに実施する国勢調査など、国の指定統計調査の費用を計上しております。増額の主な理由ですが、本年は国勢調査が実施されるため、この国勢調査に使用する国勢調査の経費が大きな要因となっております。

以上でございます。

○相場一夫議長 堀井総務課長。

○堀井 隆総務課長 83、84ページをお願いいたします。

監査委員費ですけれども、昨年と同額45万円を計上させていただきました。委員報酬、旅費、需用費の負担金のものでございます。

以上です。

○相場一夫議長 諸井福祉課長。

○諸井政行福祉課長 85ページからの3款民生費につきましてご説明申し上げます。

1項社会福祉費、1目社会福祉総務費でございますが、1,468万5,000円減額の1億379万円を予定させていただきました。減額の主な内容は、人件費の組み替えによるものでございます。この目は、88ページ上段まででございますが、職員人件費のほか86ページ説明欄の上から3つ目、社会福祉協議会運営費補助事業につきましては、前年と同額でございます。その1つ下の民生委員児童委員活動事業につきましては、12月1日の一斉改選に伴う民生委員推薦会委員報酬7万6,000円を計上させていただきました。

続きまして、87ページ、88ページをお願いいたします。2目の老人福祉費でございますが、予算額2億9,174万7,000円のうち、福祉課関係は93万1,000円減額の5,760万5,000円を予定させていただきました。この目の説明欄の上から2つ目に、養護老人ホーム入所のための老人保護措置事業の経費、1つ飛びまして緊急通報のひとり暮らし老人福祉事業の経費、またその下の高齢者生きがい事業ですが、高齢者活力センター及び福祉センターの指定管理に係る経費を計上させていただきました。90ページ上段をお願いいたします。在宅老人福祉推進事業につきましては、各種事業に要する経費を実績等を踏まえ計上させていただきました。

89ページ、90ページ下段をお願いいたします。3目の福祉医療費でございますが、執行状況等実績を踏まえ、209万4,000円減額の1億9,976万5,000円を予定させていただきました。

91ページ、92ページをお願いいたします。4目の障害福祉費でございますが、806万6,000円増額の2億2,561万7,000円を予定させていただきました。この目では、福祉タクシー使用料補助事業、障害者在宅福祉事業、身体障害者、障害児の扶助事業等の経費、また92ページ一番下の丸ですが、介護給付・訓練等給付事業から94ページまでの障害者自立支援法に基づきます訪問系サービス、日中活動系サービス、居住系サービス等の経費を実績等を踏まえ計上させていただきました。

以上でございます。

○相場一夫議長 増尾住民課長。

○増尾隆男住民課長 93ページの下段から96ページ上段までの5目人権対策費84万4,000円計上させていただきました。対前年度比で45万8,000円の減額であります。94ページの説明欄下から2行目、人権啓発講演会は、県の委託金減額と前年度で男女共同参画事業を計上していましたが、この事業は、県の委託金が見込めないものであります。

以上でございます。

○相場一夫議長 神山保険年金課長。

○神山 均保険年金課長 95ページ、96ページの上段でございますが、6目後期高齢者医療費でございます。1,167万3,000円増額の2億1,318万6,000円を計上させていただきました。群馬県後期高齢者広域連合への医療費の負担金及び町後期高齢者医療特別会計への繰出金でございます。

以上でございます。

○相場一夫議長 諸井福祉課長。

○諸井政行福祉課長 95ページ、96ページをお願いいたします。

2項の児童福祉費、1日児童福祉総務費でございますが、2億8,921万9,000円増額の5億2,250万1,000円を予定させていただきました。この目の96ページ説明欄の上から3つ目に、4月から中学校終了までの児童1人につき月額1万3,000円を支給します子ども手当支給事業4億7,281万円を計上させていただきました。

97ページ、98ページ中段をお願いいたします。2目保育所費でございます。1,166万4,000円減額の4億2,720万円を予定させていただきました。この目では、職員人件費、また98ページから106ページまでの公立3保育園の管理運営事業の経費並びに106ページ下段の私立保育園並びに他の市町村の保育園に保育の実施児童を委託する事業から、108ページ上段までの各種事業につきまして要する経費を計上させていただきました。

次の107ページ、108ページ中段をお願いいたします。3目の児童館運営費でございますが、19万3,000円増額の2,349万6,000円を予定させていただきました。説明欄ですけれども、南児童館、そして一番下北児童館、110ページの中央児童館、112ページまでの東児童館の4児童館の管理運営事業に要する経費を計上をさせていただきました。

以上でございます。

○相場一夫議長 神山保険年金課長。

○神山 均保険年金課長 それでは、111ページ、112ページの中段でございますが、3項国民年金費、1目国民年金事務取扱費でございます。327万6,000円増の1,034万3,000円を計上させていただきました。職員人件費及び事務費等でございます。

引き続きまして、113ページ、114ページをごらんください。4款衛生費、1款保健衛生費、1目保健衛生総務費でございます。3億6,023万3,000円を計上させていただきました。職員人件費としまして1億214万5,000円を予定をさせていただきました。

また、114ページの中段でございますが、医療対策事業費につきまして7,939万2,000円を計上させていただきました。その次の邑楽館林医療事務組合負担金につきましては、7,845万3,000円を予定をさせていただきました。そして、その次でございますが、国民健康保険特別会計繰出金につきましては、352万9,000円増の1億7,794万8,000円を予定をさせていただきました。医療費の増加等に伴うものでございます。

115ページ、116ページをお願いをいたします。2目でございますが、予防費としまして2,212万1,000円増の9,891万4,000円を計上をさせていただきました。116ページ上段の部分でございますが、予防接種事業1,571万8,000円増の4,911万1,000円を計上させていただきました。そのうち個別接種事業におけます定期予防接種委託料や感染症対策事業の増額等に伴うものでございます。

118ページの上段をお願いいたします。健康増進事業でございますが、653万1,000円増の4,452万3,000円を計上させていただきました。この主な理由といたしましては、集団のがん検診事業の増額に伴うものでございます。

なお、前立腺がん検診委託料につきましては、41万2,000円増の102万9,000円を計上させていただきました。従前の5年に1回の検診を2年に1回として予定をさせていただきました。

119ページ、120ページをお願いいたします。3目母子衛生費でございますが、37万1,000円増の2,404万4,000円を計上させていただきました。120ページでございますが、上段の母性保健事業の妊婦健診事業の増額に伴うものでございます。

続いて、121ページ、122ページでございますが、4目といたしまして、保健センター費465万6,000円を計上させていただきました。保健センターの管理運営事業費でございます。

以上でございます。

○相場一夫議長 小倉生活環境課長。

○小倉章利生活環境課長 続きまして、121ページ下段の5目環境衛生費でございます。321万4,000円増の2,599万7,000円を計上させていただきました。浄化槽設置補助事業や犬猫の避妊手術等の補助事業を実施してまいります。

次、123ページ中段、6目公害対策費でございますが、353万9,000円の増額の516万6,000円を計上させていただきました。この目では、河川の水質調査や工場排水調査に加え地球環境事業を新たに設け、太陽光発電設置補助事業等を実施、地球環境対策を推進してまいります。

以上です。

○相場一夫議長 神山保険年金課長。

○神山 均保険年金課長 引き続きまして、7目後期高齢者医療費でございますが、844万5,000円を計上させていただきました。後期高齢者の健康診査増額に伴うものでございます。

以上でございます。

○相場一夫議長 小倉生活環境課長。

○小倉章利生活環境課長 125ページをお願いいたします。4款衛生費、2項清掃費でございますが、1目清掃総務費では1,720万3,000円減額の4億5,661万2,000円を予定させていただきました。この目では、大泉町外二町環境衛生施設組合、太田市外三町広域清掃組合、大泉町し尿処理事務委託のそれぞれの負担金が前年度に対しまして減額になっております。

2目じん芥処理費でございますが、731万1,000円の増額の4,553万6,000円を計上させていただきました。この目では、可燃ごみ収集運搬につきまして、これまで直営で実施してまいりました1つのコースを民間委託を行い、事業の合理化をいたしてまいります。

127ページをお願いいたします。中段、3目地域し尿処理費でございますが、38万円の減額、2,518万5,000円を計上させていただきました。新中野下水処理場と明野浄化センターの維持管理事業に要

する経費を計上させていただきました。

以上でございます。

○相場一夫議長 中村産業振興課長。

○中村紀雄産業振興課長兼農業委員会事務局長 129ページ、130ページをお願いいたします。5款労働費、1項労働諸費、1目労働諸費でございますが、労働対策、雇用対策、勤労者の福利厚生に関する対策に要する費用を計上させていただきました。

以上でございます。

○相場一夫議長 大脳生涯学習課長。

○大脳 一生涯学習課長 同じく129ページ、130ページですが、中段、2目勤労青少年ホーム費につきましては298万3,000円、それから3目勤労者体育センター費につきましては2万9,000円、それぞれ光熱水費と建物共済分担金を計上させていただきました。

以上でございます。

○相場一夫議長 中村産業振興課長。

○中村紀雄産業振興課長兼農業委員会事務局長 6款農林水産業費、1項農業費、1目農業委員会費でございますが、農業委員会運営に関する予算を計上させていただきました。

2目農業総務費でございますが、134ページをお願いいたします。主なものとしますと、丸1つ目になりますが、森林病虫害等の防除事業としまして、松くい虫被害木防除に要する費用として302万円計上をさせていただきました。なお、農業総務費が前年対比1,123万6,000円の減額となっておりますが、主な理由としますと、館林邑楽農業共済事務組合の統合により、平成22年度におきましては、負担金がなくなることによるものでございます。

3目の農業振興費でございますが、134ページをお願い申し上げます。下段になりますが、丸1つ目の農業振興対策事業であります。その上から3行目になります農作物の生産性の向上を図るため、農用地土壌分析試験委託料としまして130万円計上いたしました。丸2つ目になりますが、水田利活用自給力向上事業であります。平成22年度からスタートします戸別所得補償モデル事業に対応するため、農家への支援対策としまして、1,875万6,000円を計上させていただきました。

135、136ページをお願い申し上げます。4目の畜産振興費でございますが、これは昨年と同様でございますので、説明を省かせていただきます。

5目の農業振興地域整備費でございますが、138ページをお願い申し上げます。上の丸2つ目になりますが、農用地利用集積促進事業としまして、担い手への農地の集約化を図るため助成金及び奨励金としまして334万円計上させていただきました。

6目の農地費、7目農業構造改善費につきましては、昨年と同様でございますので、説明を省かせていただきます。

以上でございます。

○相場一夫議長 横山土木課長。

○横山正行土木課長 続きまして、139ページ、140ページ中段をお願いをいたします。

8目農業土木費でございます。事業内容につきましては、ふるさと農道緊急整備事業で1路線を予定し、2,050万円を計上してございます。また、小規模土地改良事業では、集落道路整備1路線を予定し、2,010万円を計上してございます。さらに、農業用道路、用排水路補修事業費といたしまして300万円を計上してございます。

以上でございます。

○相場一夫議長 中村産業振興課長。

○中村紀雄産業振興課長兼農業委員会事務局長 7款商工費、1項商工費、1目商工総務費でございますが、140ページの丸一番上になりますが、職員人件費等を計上させていただきました。

141、142ページをお願い申し上げます。2目商工振興費でございますが、142ページをお願いいたします。上から丸2つ目になりますが、商工振興事業としまして、町商工会への補助金をはじめ、町内企業の支援のための費用としまして、1億340万7,000円を計上させていただきました。丸上から3つ目になりますが、制度融資事業につきましては、中小企業への融資の円滑化のための費用としまして、3,581万6,000円を計上させていただきました。

以上でございます。

○相場一夫議長 大拙生涯学習課長。

○大拙 一生涯学習課長 同じく141、142ページ一番下、3目産業研修会館費ですが、管理事業ということで189万8,000円。144ページをお開きください。光熱水費と建物共済分担金を計上させていただきました。

以上でございます。

○相場一夫議長 中村産業振興課長。

○中村紀雄産業振興課長兼農業委員会事務局長 4目共同福祉施設費につきましては、143、144ページになりますが、ほぼ昨年と同様でございますので、説明を省かせていただきます。

5目消費生活対策費につきましては、4月1日から予定しております消費生活センターの開設に要する費用としまして、相談員等の費用を計上させていただきました。前年対比886万5,000円の増額となっております。

6目観光費でございますが、シンボルタワー等の管理運営事業としまして、695万2,000円を計上させていただきました。

以上でございます。

○相場一夫議長 横山土木課長。

○横山正行土木課長 続きまして、145ページからをお願いをいたします。

8款土木費、1項土木管理費、1目土木総務費でございます。前年度と比較いたしまして1,210万

円の減額でございます。減額の主な内容につきましては、146ページ説明欄をお願いいたします。町道等の維持補修事業につきまして、直営から民間委託に伴う職員減等から職員人件費の1,150万6,000円の減額等でございます。

続きまして、147ページ下段からをお願いいたします。2目の道路維持費でございます。道路維持事業のうち維持補修事業につきまして、直営から民間委託に伴い予算の節区分において変更になってございます。

150ページ上段をお願いいたします。修繕料に5万円計上してございますが、ショベル、モーターグレーダーの廃止に伴い前年度より60万円ほどの減額でございます。

道路管理委託料に535万3,000円計上してございますが、民間委託することに伴い前年度よりも435万3,000円の増額でございます。小規模補修工事に500万円計上してございますが、前年度では小規模補修工事450万円とあわせて舗装道路補修工事216万円を計上しておりましたので、前年度対比166万円の減額でございます。原材料費に95万6,000円計上してございますが、民間委託することに伴い、前年度より154万4,000円の減額でございます。

次に、その下段をお願いいたします。3目道路新設改良費でございますが、1億4,920万4,000円を計上してございますが、前年度対比8,368万4,000円の減額となっております。主な内容でございますが、職員人件費で83万1,000円と、一般管理費で48万5,000円の増額を計上してございます。また、道路新設改良事業につきましては、町道幹線6号線の完了等に伴い8,500万円の減額を計上してございます。主な事業内容でございますが、地域活力基盤創造交付金事業に9,750万円を計上し、町道幹線3号線の継続整備、新規に町道幹線25号線邑楽中北側東西道路及び町道16—13号線鞍掛第三工業団地と国道354号バイパスを結ぶ道路の整備を予定しています。また、町道整備事業では1,700万円を計上し、その他の町道の整備や舗装道路補修、舗装新設工事に取り組む予定でございます。

次に、151ページ上段の5目用悪水路費でございます。前年と同額の400万円を計上してございます。

次に、その下段の3項河川費、1目河川総務費でございますが、前年度対比58万円の増額ですが、予算の組み替えによりまして、説明欄下段の鞍掛工業団地調整池除草作業委託料50万円の増額等でございます。

以上でございます。

○相場一夫議長 石井都市計画課長。

○石井貞男都市計画課長 同じページの一番下段をごらんいただきたいと思います。

8款土木費、4項都市計画費、1目都市計画総務費につきましては、1,270万5,000円減額の4,613万2,000円にて予定をさせていただきました。減額の主なものにつきましては、職員人件費でございます。

1枚開いていただきまして、153、154ページをお願いいたします。歳出の内訳ですが、一般経費につきましては、都市計画審議会委員報酬等経常経費を予定させていただきました。国土利用計画事務事業につきましても、事務経費を予定させていただきました。

2目土地区画整理費につきましては、3,626万2,000円増額の8,889万1,000円にて予定をさせていただきました。増額の主なものにつきましては、工事請負費でございます。

歳出の主なものにつきましては、一般経費104万6,000円につきましては、需用費と経常経費を予定させていただきました。

1枚あけていただきまして、155ページ、156ページをお願いいたします。土地区画整理事業につきましても、8,784万5,000円を予定をさせていただきました。主なものにつきましては、委託料867万6,000円につきましては、移転建物調査及び補償調査委託料として300万円、実施設計業務委託料として313万円、仮換地指定通知作成業務委託料としまして240万円等を予定させていただきました。

工事請負費につきましては、区画道路築造工事として2,360万円、宅地造成費として1,090万円を予定させていただきました。

負担金、補助及び交付金688万5,000円につきましては、水道管敷設工事負担金として予定をさせていただきました。

補償補てん及び賠償金3,710万円につきましては、建物の移設補償費及び電柱移設補償費として予定をさせていただきました。

以上でございます。

○相場一夫議長 沼田水道課長。

○沼田正美水道課長 同じく155ページでございます。

3目公共下水道費1億6,899万9,000円につきましては、下水道事業特別会計の繰出金でございます。詳細につきましては、邑楽町下水道事業特別会計予算の中でご説明申し上げます。

以上でございます。

○相場一夫議長 石井都市計画課長。

○石井貞男都市計画課長 続きまして、同じページの一番下段に記載されております4目公園費でございます。8,603万円減額の6,663万4,000円にて予定をさせていただきました。減額の主なものにつきましては、県施行多々良沼公園整備事業の公園用地購入費でございます。

1枚あけていただきまして、157ページ、158ページをお願いいたします。歳出の主なものにつきましては、公園管理事業の公園管理委託料でございます。3,397万4,000円を予定させていただきました。多々良沼公園及びおうら中央公園、中野沼公園等の管理事業費でございます。県施行多々良沼公園整備事業費につきましては、8,367万4,000円減額の56万2,000円にて予定をさせていただきました。減額の主なものにつきましては、県委託事業の公園用地購入費でございます。多々良沼

公園県事業負担金につきましては、県単独事業に対する負担金として56万2,000円を予定させていただきました。

以上でございます。

○相場一夫議長 横山土木課長。

○横山正行土木課長 次に、下段から160ページをお願いいたします。

5項住宅費、1目住宅管理費でございます。住宅管理事業につきましては、前年度とほぼ同様でございます。新規事業といたしまして、平成21年3月に策定いたしました呂楽町耐震改修促進計画に基づき、耐震化推進事業により耐震診断を希望する町内の昭和56年5月31日以前に着工した1戸建て木造住宅を対象に、耐震診断を実施する者を派遣するための委託料30万円ほどを計上してございます。

以上でございます。

○相場一夫議長 堀井総務課長。

○堀井 隆総務課長 159、160ページをお願いいたします。

9款1項消防費、1目常備消防費3億4,678万3,000円、前年比較1,623万9,000円の減です。これにつきましては、千代田分署の終了あるいは板倉、千代田への救急車の配備が終わったための減額でございます。

2目非常備消防費、これは町の消防団経費ですけれども、2,514万8,000円です。103万9,000円増ですけれども、これはポンプ操法大会が行われること、あるいは1都6県の水防訓練がことし22年度板倉町で行われます。その参加経費、あるいは備品、照明とかテレビの入れかえ等の経費をここで見ております。

3目消防施設費については1,773万円です。防火水槽1カ所、あるいは起債の元金利子の返済でございます。

4目災害対策費につきましては66万7,000円です。昨年と比べまして289万円ほど減額ですけれども、これにつきましては、昨年度はハザードマップの作成、あるいは2年に1度の防災訓練があったため、22年度については予定されていないためのものでございます。

合計いたしまして、161ページごらんになっていただきたいのですけれども、本年度予算は3億9,032万8,000円となっております。

以上です。

○相場一夫議長 暫時休憩いたします。

〔午後 3時41分 休憩〕

○相場一夫議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

〔午後 3時55分 再開〕

○相場一夫議長 補足説明を続けます。

河内学校教育課長。

○河内 登教育長職務代理者 学校教育課長 引き続き161、162ページをお願い申し上げます。

10款教育費、1項教育総務費、1目の教育委員会費でございます。前年度とほぼ同額の161万5,000円を計上させていただきました。

2目の事務局費につきましては、7,301万5,000円を計上させていただきました。前年度に比べますと236万3,000円の減額でございます。主なものにつきましては、特別職を含む職員人件費の減額でございます。

次に、3目学校教育指導費でございます。163ページから168ページ上段まででございますけれども、9,357万4,000円を計上させていただきました。前年度比742万6,000円の増額計上でございます。これは、主に166ページ説明の欄の上から2つ目の丸印でございますが、教育相談事業で教育相談員賃金と、それから同じページでございますが、一番下の臨時補助教員等配置事業で、臨時職員賃金をともに人員の増を図るために増額をしたものでございます。また、この目の中で計上をしておりました中学生の国際交流研修事業につきましては、事情により今回は予算計上をいたしませんでした。

次に、167ページ、168ページでございますが、4目教育研究所費につきましては、121万7,000円を計上させていただきました。ほぼ昨年と同額の計上でございます。

次に、同じ167ページ、168ページの下段でございますが、10款2項小学校費でございます。182ページまでの記載でございますが、1目学校管理費につきましては、8,690万6,000円を計上させていただきました。前年度比879万1,000円の減額計上でございます。主に正規職員の減員に伴う職員人件費の減額によるものでございます。それから、各小学校の運営事業費につきましては、ほぼ前年度と変わらず計上をさせていただいております。

続きまして、181ページ、182ページをお願いします。2目の教育振興費につきましては、1,069万4,000円を計上させていただきました。前年度に比べまして156万7,000円の増額計上でございます。主には186ページになりますが、説明の欄、中段の丸印、就学奨励事業に係る費用の増額によるものでございます。

続きまして、同じページの下段になりますが、小学校費の最後でございます3目学校建設費につきましてでございますが、昨年長柄小学校校庭整備事業の工事請負費と設計監理委託料を計上させていただきましたけれども、事業の終了により廃目とさせていただきました。

その同じページの最下段になります。10款3項中学校費でございます。1目の学校管理費でございますが、5,392万6,000円を計上させていただきました。前年度比1,029万5,000円の減額計上でございます。小学校費と同様、正規職員の減員に伴う職員人件費の減額が主なものでございます。ま

た、両中学校の運営事業費及び施設管理事業費につきましては、ほぼ前年度並みでの計上でございます。

続きまして、191ページ、192ページの最下段になりますが、2目の教育振興費でございます。855万3,000円を計上させていただきました。前年度比148万9,000円の減額でございます。主には対象生徒減に伴う就学奨励事業費の減額でございます。

続きまして、195ページ、196ページをお願いを申し上げます。中段でございますが、3目の学校建設費につきましては、21年度の計上はありませんでしたけれども、22年度につきましては、邑楽中学校の北校舎と南校舎をつなぐ渡り廊下の耐震補強に係る実施設計費283万5,000円を計上させていただきました。

次に、同じページの10款4項の幼稚園費、1目の幼稚園費でございます。1億2万9,000円を計上させていただきました。前年に比べますと956万6,000円の増額でございます。主なものとしましては、正規職員2名が育児休業から復帰をするということに伴う職員人件費の増額でございます。各幼稚園の管理運営事業費につきましては、ほぼ昨年と同じでございます。

以上でございます。

○相場一夫議長 大拙生涯学習課長。

○大拙 一生涯学習課長 201、202ページをお開きいただきたいと思います。

10款教育費、5項社会教育費、1目社会教育総務費につきましては、4,233万7,000円を計上させていただきました。前年度対比921万7,000円の増額でございます。主な理由は、職員人件費の増額でございます。

2枚めくっていただきまして、205、206ページをお開き願いたいと思います。206ページの上段にあります中央公民館の建設準備事業として、6万6,000円を計上させていただきました。これは、中央公民館の検討委員会を設置し、中央公民館の建設等について検討を行うために必要な消耗品等を計上させていただきました。

2目青少年育成費につきましては、前年度対比21万8,000円減額の260万1,000円を計上させていただきました。主な理由は、放課後子ども教室が3年目となるため、随時自主活動に切りかえていくために、事業費の21万7,000円を減額したものでございます。

3目文化財保護費につきましては、前年と同額の38万6,000円を計上させていただきました。前年と同様、文化財保護調査員のご協力をいただきながら、文化財の保護、保全を図っていきたいと思います。

207、208ページをお開き願いたいと思います。4目公民館費につきましては、3,025万8,000円を計上させていただきました。前年度と比較いたしまして916万8,000円の減額となりましたが、主な理由は、人件費の減額によるものです。

管理費において、210ページをちょっとお開きいただきたいと思います。11段目にありますが、

邑楽町公民館第1次耐震診断委託料60万円を計上いたしました。耐震診断を実施し、その結果も含めまして検討委員会に報告していきたいと思ひます。

211、212ページをお開き願ひたいと思ひます。5目地区公民館費につきましては、前年度とほぼ同額の1,826万2,000円を計上させていただきました。

次は、215、216ページをお開き願ひたいと思ひます。6目図書館費につきましては、昨年度と比較いたしまして833万3,000円の減額の6,841万2,000円を計上させていただきました。減額の主な理由は、人件費の減額によるものでございますが、管理運営事業の220ページ上から4つ目の音響機器賃借料等では、契約の内容を精査した結果、減額となっております。

7目勤労青少年ホーム費は、昨年度と比較いたしまして1,014万1,000円の増額の2,840万9,000円を計上しました。増額の主な理由は、職員人件費の増額でございます。

次は、225、226ページをお開き願ひたいと思ひます。10款教育費、6項保健体育費、1目保健体育総務費につきましては、前年度とほぼ同額の486万円を計上いたしました。本年度もスポーツ振興大会事業や町民体育祭事業を進めていきたいと思ひます。

次は、227、228ページをお開きいただきたいと思ひます。2目体育施設費につきましては、前年度とほぼ同額の222万5,000円を計上いたしました。青少年広場、テニスコート等の管理運営を継続していきたいと思ひます。

3目町民体育館費につきましては、4,559万7,000円を計上させていただきました。前年度と比較いたしまして1,014万3,000円の増額となりましたが、主に人件費の増によるものでございます。

次は、231、232ページをお開き願ひたいと思ひます。4目武道館費につきましては、前年度とほぼ同額の56万4,000円。次の5目スポーツレクリエーション広場費につきましても、前年度とほぼ同額の256万1,000円を計上しました。各施設の管理事業を今までと同様に進めていきたいと思ひます。

以上でございます。

○相場一夫議長 河内学校教育課長。

○河内 登教育長職務代理者 学校教育課長 続きまして、同じ231、232ページの最下段でございます。6目の給食センター費でございますけれども、9,886万5,000円を計上させていただきました。給食センター費につきましては、職員給与等繰出金とその他事業費繰出金を含め、学校給食事業特別会計への繰出金でございます。

以上でございます。

○相場一夫議長 堀井総務課長。

○堀井 隆総務課長 次の233ページ、234ページをお願いいたします。12款公債費、1項公債費、元金利子合わせまして6億3,661万4,000円を計上させていただきました。昨年と比較しまして2,281万円の減です。

13款諸支出金、1項普通財産取得費、1目土地取得費1億4,672万6,000円につきましては、土地開発基金で所有している町内4カ所の土地1万611平米を取得しようとするものでございます。なお、土地につきましては、鶉、新中野、大黒、中央公園の北側の土地になります。

次のページをお開きください。235ページ予備費、昨年と同額の2,000万円を計上させていただきました。

以上です。

○相場一夫議長 これより逐条質疑に入ります。

まず、一般会計歳入全款についての質疑を行います。予算書では52ページまでであります。

小倉議員。

○12番 小倉 修議員 一般会計の年度予算と、そこから質問をさせていただきますが、一般会計予算ですね。

過日の定例会では、課の設置条例が廃止された中に出したものだから審議していただきたいということで、最後まで変わらなかったわけですが、最終になって撤回と。その途中の中では、課長が個人的に、「議員よ、修正をして今から19日には何とか審議していただけますか」と、個人的に言った方もおられました。あなたは、1回出た予算だから、否決になったにもかかわらず、どうせ使わない予算だから、不用額になってもこのまま審議してくれというような姿勢、態度、それが最後は撤回と、撤回したいと。今でも私はちゃんと覚えているのですが、その中で町長、地方自治法211条第1項、それから行政実例等、どのように考えておるのか説明願いたい。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 お答えいたします。

課の設置条例が否決になったということで、当初予算、それと並行してお願いしたわけですが、否決の中でそのそごが生じたということの中から、1つは、その進め方について、議会のほうで議決をいただいて、その後の修正ということ、補正ということ、それからその場での修正ということも可能であるということ、そのように理解をしているわけですが、結果としてその予算の内容が間違っているということのものでありますから、今議員のほうからご意見があったような形をお願いをしたというものでございます。

〔「質問に答えてないよ」「私は、地方自治法の211条第1項について、町長はどのように考えておるんかということですよ、撤回した内容によつての」と呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 211条では、予算の調整及び議決ということがあるわけですが、年度当初の始まる前に議会の議決を得なければならないと、このようになっておるものでございます。

○相場一夫議長 小倉議員。

○12番 小倉 修議員 今のは総務課長にやっと教わって言っているのかな。私の自治法は、日本国

の自治法はですよ、第211条第1項、「普通地方公共団体の長は、毎会計年度予算を調整し、年度開始前に議会の議決を得なければならない。この場合において、普通地方公共団体の長は、遅くとも年度開始前、都道府県及び第252条の第19号第1項に規定する指定都市にあっては」、政令都市です。

「指定都市にあっては30日、その他の市及び町村にあっては20日までに当該予算を議会に提出するようにしなければならない」と。今、20日過ぎたでしょう。きょうは29日ですよ。定例会は19日に終わりましたですよ。だから、私は丁寧に行政実例までお話ししているのですよ。行政実例も説明しましょうか、何でしたら。そうではなくて、地方自治法というのは、逃げ道がいろいろあるのですよね、私もいろいろばかの頭で勉強していますけれども。ですから、指定都市にあっては年度開始前30日、政令都市ですね、その他の市及び町村にあっては20日までに当該予算を議会に提出するようにしなければならないと。撤回をしたということになれば、提出していないのでしょ、我々議会には。だから、きょう新たにやるということで議会運営委員会もやっていたでしょう。総務課長も説明していましたよ、新たにやるということで。それをどう思うかということ私を聞いています、町長に。初めから答えていないではないですか。お答えください。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 20日前までに提出をいたしました。その提出した内容が、先ほど申し上げましたけれども、課設置条例の否決によってそごが出たと、行き違いがあったということの中で、本日その内容を修正をしてお願いをしているということでございます。

〔「撤回したことでしょ、修正じゃないでしょ」と呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 撤回をして本日お願いしているというものです。

〔「言ってることがわかんないか」「撤回というのはないということで すよ」「何十年勤めていたんだ」「総務課長が1回その辺から説明してもらいましょうかね。だから予算説明は初めからやるって」「そんな説明なんかしなくて済んだんだ、撤回しなければ」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 小倉議員。

○12番 小倉 修議員 それでは、行政実例を説明しましょうか、町長。私が。課長の中では、きょうは徹夜でもいいから修正をして、19日何とかありませんかと思った課長もいたのですよ。あなたは、最後に来て撤回でしょう。きょうは、撤回というのは、総務課長が議会運営委員会で説明したとおりですよ。あなたは、都合のいいときには、定例会の内容を引きずって、都合が悪いときにはしらばっくれている。撤回というのは、私ども予算書がないから、あなたは予算書が来たのでしょ、総務課長、きょう。ですから、説明の仕方もこうしたいということで議会運営委員会を2回も

開いたでしょう、きょうは。そこで総務課長説明した内容とあなたが今言っている内容は違うではないですか。

〔「議会軽視も甚だしいよ」と呼ぶ者あり〕

○12番 小倉 修議員 定例会の継続していませんよ。何を言っているのですか、あなたは。行政実例を説明してやりましょう。あなたほっとするでしょうから。「法定期限経過後議会に提出しても、当該予算の効力には影響がない」と。地方自治体が大変な重荷になって、また暫定予算を組むとなると暫定予算の仕分けしなくてはならないと。執行部は大変であるということだから、地方自治法は抜け道が書いてあるのですよ。おくれたとしても、当該予算の効力には影響がないと。私が質問をして私が答えては何もならないのだけれども、あなたはでは、そっくり今話しましたが、次にもあるのですが、初めの地方自治法の211条第1項についてあなたはどう思うかと。それによつては議会軽視ですよ、あなたは。しっかりと答えてください。

〔「余り議事をばかにしないほうがいいよ」「議長、暫時休憩にしてくれ」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 大変申しわけありません。最初3月9日の日に提案をいたしまして、そのようなそごが生じたということの中で、その予算を18日ですか、撤回をしたということは、そのとおりでありまして、自治法の中での予算の調整及び議決ということの中では、議員が言われますように、年度開始前20日までにということはあります。ひとつそのような行き違いという部分が生じたということがありましたので、ぜひその理解の仕方については、大変こちらも不明確な部分があつて申しわけありませんが、ご審議をいただいてよろしく議決をいただければと、こんなふうに思っております。

大変失礼をいたします。

○相場一夫議長 小倉議員、まとめをお願いします。

○12番 小倉 修議員 私は、初めの211条第1項についての中で、町長の判断が私は間違っていたと、申しわけないと、ここで議員にみんな謝るのですよ、普通ならば。もうちょっと謝り方もちゃんとした中で謝るのです。ある課長は18日にわかつていたのですよ、この内容は。だから、その課長は、行政実例の内容がわかつていたのかなと私は思っていたのです。あなたは中身もわからず、定例会の内容も方向もわからず、ただ撤回をただけでしょう。撤回というのは、どういう重みがあるかというのがわからなくて撤回したのでしょうか、それでは。地方自治法読めばちゃんとわかるのです、この予算については。144条にも載っていますけれども。だから、この211条第1項についてどう思うかというときには、私の不徳としたところで、まことに定例会がこういうことになって申しわけないと謝るのですよ。行政実例で、これ地方自治法で今度は内容が執行部に向けた内容があるのですよ、ちゃんと。効力があるということで。そんなことがわからなくて、せっかく出した

予算を軽々しく撤回するようなことは、絶対しないほうがいいですよ。予算を出したり撤回したり、人を訴えたり放棄したり、とんでもない男だ、あなたは。もうちょっと町の1年間の予算なのだから、しっかりした中で考えてもらいたい。撤回の内容はわからないでしょう、あなたは、それでは。ただ言葉だけ、撤回だけでは。来年度から邑楽町町民が使う金なのですよ、税金を納めるのも大変だけれども、今は。使うほうはもっと大変なのだよ。何もわからないで口だけで撤回されているのでは、議員として立場がないですよ、私どもは。もう一回。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 大変勉強不足で申しわけありません。今総務課長のほうにも確認をいたしました、そのような状況があったということでもあります。私自身が不徳のいたすところで、理解不足で大変ご迷惑をおかけしておりまして申しわけありません。ぜひよろしくご審議をいただきたいと思いますが、以上でございます。

大変申しわけありません。

○相場一夫議長 横山議員。

○13番 横山英雄議員 3月9日から19日まで何をやっていた。9日の日に否決になって、そこで訂正をして18日に提出するのが当然。18日に何度も言いましたよね、私はね。間違いに気づいたときには、素直に謝罪をして訂正をし、そして再提出をして審議をお願いしますというのが当然だろうと。それを当初にのせたのだから、議会が否決したのだから、議会が修正案を出せばいい、あなたそれ突っ張っていたよね。議会を軽視するのも甚だしいよ。それで、あげくの果てには撤回。職員として40年近く、そして議員の4年半、町長2年3カ月、それをやっている人間がこの地方自治法もわからないのですか。職員はたまったものではない。きょうも最初から謝罪をして、18日に謝罪をしてやっておけば19日には決まったのですよ。課長がわざわざ全部説明をして、臨時会で我々議員が集められて、こんな時間をかけてやることはなかったのだ。あなたの姿勢が一番悪いからだ。ちゃんと謝罪して、謝罪文を書きなさい。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 この地方自治法の211条の項目、先ほど小倉議員のほうからも出ましたけれども、20日前までということもあるようですが、ぜひ小倉議員のほうもその補完する部分もあるというようなこともおっしゃられたわけでありまして、これは大変私のほうで勉強不足で、大変申しわけなく思っておりまして、重なりますが、おわびをしてよろしくお願いをしたいと思います。大変申しわけありません。

〔「謝罪文を書いて出せよ。課長はたまったもんじゃないよ」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 横山議員。

○13番 横山英雄議員 文章で謝罪をして、それからですね。暫時休憩とってください。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 口頭で大変申しわけありませんが、よろしくお願ひしたいと思います。謝罪文というふうなお話もありますが、ぜひ口頭の謝罪ということでお願ひを申し上げたいと思います。

○相場一夫議長 横山議員、3問目はどうですか。

○13番 横山英雄議員 3問目ではなく謝罪文書けと言っているのだよ。だめだよ、それでは。

◎会議時間の延長

○相場一夫議長 本日の会議時間は、議事の都合によってあらかじめこれを延長いたします。

○相場一夫議長 暫時休憩いたします。

〔午後 4時30分 休憩〕

○相場一夫議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

〔午後 4時55分 再開〕

○相場一夫議長 町長からの答弁を求めます。

金子町長。

○金子正一町長 横山議員のご質問にお答えをいたしたいと思います。

地方自治法の211条の1項の規定につきましては、私の勉強不足によりまして、明確に認識していなかったことについては、先ほど答弁をさせていただいたとおりでございまして、まことに申しわけなく思っております。なお、休憩の中で確認をいたしましたところ、その内容については、事務方も認識をしていたようでありまして、先ほども小倉議員のお話にもありましたが、行政実例で確認し、また県の市町村課にも照会をして、この予算書の提出ということについては、その効力に問題ないということの確認をしていたということでございます。私と事務方との意思の疎通に問題があったわけでありまして、本当に申しわけなく思っております。先ほど定例会の中において、原案を訂正する道もあったのではないかというような横山議員のご指摘もあったわけでありまして、これも議員のご指摘のとおりでありまして、そのような方法もあり得たかというふうに思っております。ただ、当時の議論の中で、議員の皆様の中から21年度の補正予算を先にということ、それがただされないうちは、22年度の当初予算の審議に入れないというようなご指摘もいただいたわけでありまして、私といたしましては、21年度補正予算もぜひご決定をいただき、また22年度当初予算もぜひご決定をいただきたいと思いますというその思いから、撤回を決意したというものでもございます。一事不再議の原則から、同じ定例会において21年度の補正予算の審議ができない以上、このようなご意見を採用しようとするれば、撤回するしかなかったかというふうなところが、私の正直な気持ち

でもございます。どうかこうした事情をお酌み取りをいただきまして、ご理解を賜りまして、ぜひ審議をお願いしたいと思うところでもございます。大変混乱を来して申しわけありませんですが、よろしく願いを申し上げたいと思います。

○相場一夫議長 横山議員。

○13番 横山英雄議員 謝罪文のはどうしたのですか。そして、補正が決まった後でなければやらない。正式の場であったのですか、そんなことが。あなたが聞いたのですか。ぜひ何とかお願いしますと真剣に町長みずから議員の前に来て謝罪をして、何とかお願いしますというのが普通ではないのですか。あなたが提出者ですよ、トップではないですか。職員が心配して、職員が個人的ですがという話でしょう、正式な話ではないでしょう、そんなことは。ごまかさないうで、謝罪文を出さない。

〔「何のために休憩とったんだよ、こんなに長く」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 謝罪文の提出というような要望もありますが、検討させていただいて、後日検討していきたいと思いますが、よろしく願いしたいと思います。

○相場一夫議長 石井議員。

○17番 石井悦雄議員 今横山議員のほうからお話があったように、私もそのようにしたほうがよろしいと思います。と申し上げるのは、今日までの町長の言動を見ておきますと、全く信頼できない。ここでうまい言葉を発しているあなたと議場を離れてちまたを歩くあなたは、全く違うような感じがします。そういう意味においても、私はきちんと文書でもって謝罪してほしい。それはできるはずですよ。先般人事案件のときに、月日まで入れて提出をしてくれた経緯もでございます。そういうことをやってきたのですから、当然文書で配付できると思います。要望いたします。

○相場一夫議長 町長、答弁を。金子町長。

○金子正一町長 検討してみたいと思います。

〔「検討というのはなんだ」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 石井議員。

○17番 石井悦雄議員 先ほども申し上げたように、今日まであなたがとってきた行動は、決して私は信頼できないのです。ですから、文章をもって出してくれと、そういうことなのです。そのくらい町長は世渡りが上手なのです。こんなことは申し上げたくないです。そういう意味においても大事な予算の関係ですから、ぜひお願いをします。いや、お願いではないです。出してほしいと思います。

以上です。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 そのようにいたします。

〔休憩だ、休憩〕と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 石井議員。

○17番 石井悦雄議員 今快く受けていただいたので、できることであれば休憩を挟んで、休憩をいただいて、そして出していただければよろしいかなと、そんなふうに思っております。

以上です。

〔議長、参考意見、よろしいですか〕と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 ちょっと待ってください。

もし時間をとるので何分ぐらいとったらよろしいですか。30分でいいですか。

その前に、小倉議員。

○12番 小倉 修議員 私は、参考意見と。先ほど地方自治法の話をしていただきましたが、今回の定例会についても、教育委員の問題、それで書面を私2枚いただいたのです。片方は3くだり半と、3行半書いたものです。それから取り下げ理由もここへ今度は新たに出してきたのですが、内容的に、人をお願いをし、人に断ると。人を人と見ていないような私はやり方だと思うのです。今回の撤回についても、しっかりとした内容の中で返答願いたいと思うわけでございます。皆さんも教育委員の問題について、執行部側からの説明がここに理由が書いてありますが、人を頼んで人に断るだけの問題ではないと。そういったことで、今回の予算の撤回についても、こういう内容だということをお細々としっかりとした、先の町を見詰めた中で考えた内容を出してもらいたい。ほんのわずかな口先だけの内容では私は納得できない。よろしく町長お願いします。

○相場一夫議長 暫時休憩いたします。

〔午後 5時05分 休憩〕

○相場一夫議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

〔午後 5時45分 再開〕

○相場一夫議長 町より謝罪文が出ましたので、配付させます。

〔謝罪文配付〕

○相場一夫議長 配付いたしました。町長よりお願いいたします。

金子町長。

○金子正一町長 謝罪をいたします。

謝罪文。

このたび町議会平成22年第1回定例会におきまして、私が提案いたしました平成22年度一般会計予算外各予算につきまして、原案の訂正という方法を選ばず、これを撤回し、第1回臨時会におい

て再提案いたしましたことにより、結果として地方自治法第211条第1項の規定に抵触する事態となりましたことをおわびいたします。

私がこのような方法を選択いたしましたのは、3月18日の本会議及び全員協議会の議論の中で、議員の皆様の中から対応、おおむね21年度補正予算が先であり、それがただされないうちは、22年度当初予算の議論はできないとのご指摘もいただいたことから、できる限りそのご指摘にこたえようとした結果でございます。一事不再議の原則から、同じ定例会において21年度補正予算の審議ができない以上、そのようなご意見を採用しようとするれば、撤回するしか方法がなかったというのが正直なところでございます。どうかこうした事情をお酌み取りの上、ご理解、ご容赦賜りますようお願い申し上げます。

私の不徳のいたすところによりこのような事態を招きましたことを改めて深くおわび申し上げます。

平成22年3月29日、邑楽町長 金子正一。

どうぞよろしくお願いいたします。

○相場一夫議長 一般会計の歳入全款についての質疑を行っております。予算書では52ページであります。質疑ありませんか。

石井議員。

○17番 石井悦雄議員 今議長が進行しようとするところで、このような発言してよろしいかどうか、ちょっと心配しているのですけれども、この謝罪文についてのことは発言してはいけないのですか。ちょっと気になる文章があったものですから。

○相場一夫議長 発言を許します。

○17番 石井悦雄議員 よろしいですか。

○相場一夫議長 はい。

○17番 石井悦雄議員 ありがとうございます。

気持ちはよくわかります。この中に、ちょっとどなたかに、これは補正予算を先にやらないと云々ってありますけれども、この辺がちょっとひっかかるのですけれども、その辺について何かご説明いただけますか。できますか。お願いします。

私の発言の仕方がちょっといけなかったかな。もっとわかりやすく言えば、どなたかにこれはまずいよと言われて順序が変わったというふうにとれる部分があるのですけれども、そのようなことは、個人で判断したのではないようにとれているのです。町長個人の判断ではなくて、だれかに、どなたかに、何と言ったらいいのですかね、これはまずいからこういうふうにしたほうがいいのかという、そういう指摘を受けた中での進め方であったかのように私はとっているのですけれども、その辺について町長の考えを。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 決してほかの方に相談をしてということではなくて、3月18日の日のご議論ということで、実は日記の中にもそのように記載がありましたので、私自身の判断でこのような文を作成したというものでございます。

○相場一夫議長 石井議員。

○17番 石井悦雄議員 一応今言った町長の言葉を小さく信じます。

以上です。

○相場一夫議長 本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 ただいま石井議員が言いましたけれども、このことについては、私が言ったと思っています。なぜ言ったのか、それは、町長は何が何でも予算を通してもらおうということでそのときは発言していたと思います。ですが、その3,000万円の件がありましたので、その議会ではそれを一度決定されているからかけられないと。順序が逆だろうということで、私はそういう話をしました。その過程の中で、町長はこういうことも言っていますね。最後に謝罪をする前に、議員提案で予算を出せと、そういう話もしましたね。私は、本来町長が町の執行機関の代表者であるならば、当然のごとくそれ以前に頭を下げて、町民のために予算を通してもらおうという姿勢があれば、今ここでもめるようなことがなかったのですよ。それは、あなたは議会から、みずから予算書出せと言ったのですよ、そのときは。その後謝ったのですよ。ですから、私はあなたの本当の気持ちで謝っていないと、謝罪していないと、そういうふうに思ったのです。今回もそうです。最初にきちんと謝れば何でもないことだと私は思います。この謝罪文の中にはそういうことは書いていないですよ。だから、私はそれを申し添えたいと思って今発言しているのですけれども、そういうあなたの姿勢が全部災いしているのですよ。最初に謝れば何でもなかったのですよ。最初に訂正させれば何でもなかったのですよ。私はぼそぼそって言って、一般質問でも話しましたよね。直したほうがいいのではないかなと。早く直せば何でもなかったのですよ。それを無理に押し通そうとする姿勢がそういうことになったのでしょう。ちっとも謙虚ではないということですよ、町長の姿勢が。

ほかの質問に入っているですか、議長。これはこれでいいです。

○相場一夫議長 はい。

本間恵治議員。

○14番 本間恵治議員 それでは、歳入歳出予算事項別明細書というのが11ページにありますけれども、総括という中で出ていますけれども、予算についていろいろ質問させていただきたいと思えます。

地方交付税というのがありますが、前年度の予算額から比べますと2億1,185万円ほどふえています。これは、普通交付税が8億円、特別交付税が4,985万円ですか、この算定根拠につきまして、簡単にわかりやすく説明をお願いしたいと思います。

○相場一夫議長 堀井総務課長。

○堀井 隆総務課長 地方交付税の算定根拠について申し上げます。

地方交付税におきましては、地方交付税の算定根拠としては、基準財政需要額から基準財政収入額を引いたものの不足額が普通交付税の税額となります。その町で使います基準財政の需要額、必要とする額からその町に入ってくる収入額を引いたものが、その財源不足額が普通交付税となってきます。下に書いてあります特別交付税というものは、その町独自の施策に基づくもの、例えば学童保育ですとか、有害鳥獣の駆除だとか、環境対策だとか、排水路の管理ですとか、そういったもの、特殊事情に基づくものがこの額になってきます。なお、昨年よりも約3,000万円ほど少ないのですけれども、これは企業に対する立地奨励金が3年間いただきましたので、ここで8,000万円から3,000万円減額になっているということです。

以上です。

○相場一夫議長 本間議員。

○14番 本間恵治議員 わかりました。まだまだ幾つも聞きたいのですけれども、幾つも聞くと3回で終わりだと言われると困りますので、議長にね。全体のことを申します。例えば、この中で町債につきましては、前年度に比べますと1億9,430万円ですか、本年度予算額はふえているのですね。増額になっているのです。私は、この歳入合計が69億8,142万6,000円、邑楽町の税収に見合った事業をやる中で、こういう交付税、それから町債、どんどんどんどんふえていっているのですね。このとおりにいけばいいですよ、歳入が。私は、ちょっと見通しが甘いのではないのかなと。例えば、今までは国の景気対策等で、何でも使っていいお金がもらえたりしていますよね。この新しい年度には選挙もあるということで、子ども手当等ばらまきの予算が結構組まれているのですね。では、その後どうだろうと。ましてや歳入は、税収が多分どんどん落ち込んでいっていますよね。特に、法人税等に比べてみますと、前年度の事業収益に対する税収になってくるわけですから、当然今年度よりも来年度のほうがもっと大変になるのではないかな。そういうことからすると、70億近い予算を組んで、私はいろいろ見ると、今までは借金を少しずつ返していた事実があると思うのですけれども、最近逆にお金が返せなくて赤字になっているのではないかなと思うのです。そういう点で、この歳入の見込みが私は甘いのではないかなというふうに思っているのです。この歳入のとおりに進めばいいのですけれども、もし多分不納欠損等出てきたときには、どこからお金を持ってくるかということも考えていかなければならないのだと思うのです。税収の落ち込み等考えた中で、私はその税収に見合ったやはり事業計画を立てて予算を組むのが当然のことだと思っているのです。それからしますと、当初予算の立てる段階で、基金の取り崩しについてということで数値を出しましたね、ですが、補助金が臨時財政対策債ですか、それが入ったから、取り崩さずに済んだからということであやむやになりました。私は、その中身について、何のお金が足らなくて基金の取り崩しをするのだろうかということが、議員の人たちには知らされずに、そのままあやむやになっ

てこの予算書を現在見ているわけですね。本来であれば、きちんとした事業計画のもとに、収入のもとにお金を使うのであれば、当然のごとくその臨時財政対策債5億7,000万円が、私はそのまま有効に別のお金として使えると思うのですけれども、それがどんなふうに散らばったのか、事業をやる上で私は何に使われたかわからないですね。当初金子町長が一番最初ですか、予算書出してきたときに、基金の取り崩しについて出したとき、何に使われるのですかと言ったら30項目ぐらい、これに幾ら、これに幾らとずっと並べました。私は、そういう使い方をしてほしくないのです。きちんと収入に見合った事業計画を立てれば、当然そのお金が余るわけですよ、その余ったお金で新規事業なり、例えば給食センターに使うとか、そうすれば張り詰めのついた、きちんとした私は事業計画になると思うのです。それが全部うやむやのままでこの予算書として提出されたことについては、私は不信感がたくさんあるのです。それをわかりやすく説明していただければと思います。

○相場一夫議長 堀井総務課長。

○堀井 隆総務課長 まず最初に、議員が心配されております地方債の残高ですけれども、今現在は、下水、上水合わせて88億8,700万円ほどあります。うち一般会計につきましては57億2,200万円です。このうち臨時財政対策債26億5,400万円、46.38%が臨時財政対策債でございます。なお、ご心配されるとおり、今年度臨財債が5億7,000万円、国のほうが本来ならば地方交付税として配分すべきお金がないということで、地方で借金をしておきなさいと。そのかわり後で国が面倒見ますよというのが、簡単に言いますと臨時財政対策債ですけれども、元金、利子とも基準財政需要額に入れますよという内容でございます。ということで、この大幅に伸びた交付税も臨財債も大幅に伸びたというのは、先ほど言いましたとおり、計算シートをもとに国からの指示によるものでございます。町が勝手に推定してやったものではございません。

なお、ご心配のとおり、借金が今全体で88億円と申しました。これが一般財源ですと57億円あるわけなのですけれども、5億円プラスになってしまうというのが、5億7,000万円プラスになってしまうというのが結果になります。だから、借金額は確かにふえます。なお、基金取り崩しにつきましては、財政調整基金につきましては、今年度こういった理由、それともう一つは、子ども手当を全額国庫負担で見たために財政調整基金を取り崩さずに済みました。ただ、財政調整基金、何事業、何事業って挙げなさいということなのですけれども、臨財債と同じように、町の一般経費として見ておりますので、なかなかひもつきの財源にはなりづらいというのが実態でございます。予算を編成している立場からそう考えておりますので、よろしく願いいたします。

○相場一夫議長 本間議員。

○14番 本間恵治議員 今総務課長が申しました。それをでは特別の事業には使えないという話でしたら、それは満遍なくほかの部分に分けて使ったということでも結構です。そうしたら、そのお金が浮くわけですよ、ほかへね。それを使っていれば。1つの予算だったら。では、それを特色を出して、どこにどれだけのお金を費やして、町の事業として、目玉としてこれを、この事業に対し

ては、町として来年度力を入れるのですよと。そういうことが言えるものがあつたら言ってみてください。

○相場一夫議長 堀井総務課長。

○堀井 隆総務課長 額的にはそんなに大きくないですけども、太陽光発電、土壌診断、それと幼稚園の教員の増員、そういったものに使われていると思つて解釈しております。

○相場一夫議長 ほかに質疑ありませんか。

横山議員。

○13番 横山英雄議員 本間議員が先に進んでしまったのですけれども、この謝罪文については、納得はしていません。この2番目の、「私がこのような方法を選択いたしましたのは、3月18日の本会議及び全員協議会の議論の中で、議員の皆様から」、これは大もとは9日に、先ほど本間議員が言ったように、9日に否決になっておりながら、その不用額が載ったままだと、これを訂正なさいと言つたわけですよ。何回も言いましたよね。それを議員が否決にしたのだから、議会を出してきて修正案を出せばいい、そのやりとりからこういう結果になったのではないですか。ごまかしてはだめですよ、これ。こんなのは謝罪文になっていないよ。あたかもこれは議員が補正がだめのうちはだめだよと、初めから言つたようになっていきますけれども、これは違うよ。町長が謝罪をして、それで訂正をしておれば、こんなことにはならなかったのですよ。これをやり直したよ、これは。

○相場一夫議長 町長、答弁。

〔「答弁じゃない」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 修正にしますか。

〔「それじゃ自分に非がない、ちつとも。議員が言つたから議員の要望にこたえようとした結果こうなつたなんて話だ。とんでもないよ。自分が謙虚に謝罪する気がなかつたからこうなつたんだよ。こんなんで納得している議員はいないと思うよ」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 町長、答弁を。金子町長。

○金子正一町長 この謝罪文でぜひご理解をいただきたいと思うわけですが、よろしく願いをいたします。

○相場一夫議長 小倉議員。

○12番 小倉 修議員 この謝罪文を読ませていただいたのですが、議員の皆様の対応、21年度の補正予算が先でありと。それがただされないうちは、22年度予算の議論はできないと。できる限りそのご指摘にこたえようとした結果でございますと。いや、この補正予算が先だと、私もやったことあるからわかりますが、補正予算と当初予算は全く別ですよ。出す町長の自信というものが全く

ないと。これはあらわれですよ、内容的に考えた中で。この言っていることは、できる限りそのご指摘にこたえようとした結果でございますと。そうではないでしょう。町長が言っていたのは、1回提出した予算の中で、課の設置条例が否決されたと。しかしながら、それは不用額で使わない予算ですから、このままひとつご審議いただきたいって最後まで突っ張ったでしょう、あなたは。たしか補正予算が先だなんて言っていた議員もいましたけれども、それは予算の方向から、考え方からすれば、当初予算と補正予算を一緒にして考える町長というのは、恐らくいないと思うのですよね。両方とも大事ですよ。ですが、あなたの言ってきたことは、1回出した予算です。計画です。課の設置条例もそうだったですよ、議案で載っていましたが、否決されたでしょう。それをあなたの姿勢の中で正しくすぐにでも修正をさせて出すだけの意思はなかったのですよ、あなたは。使わない予算だけれども、このまま審議してくれというような内容だったのですよ、1回出した予算だから。ずっとそのやりとりをしていて、最後は撤回でしょう。だから、私は大きな声を出したのです。だから、この謝罪文を見れば違うでしょう、あなたが言ったこととやったことが。この書いてあることが。それは補正予算が先だなんて言った人もいますよ。だけれども、出すほうの責任からして、予算とはなんぞやと。当初予算とは何ぞやと。基本を考えて言っていないでしょう、あなたは。そうでしょう。だからこういう謝罪文になるのです。首長として責任ある立場の人間は、その予算の流れ、予算の考え方、補正予算はなんぞやと。当初予算はどういうことだと。考えを持った中で予算書上程しているのではないのですか。議員がちょこつと言えぱこっち見たり、ちょこつと言えぱこっち向いたり、そういうことではないでしょう、当初予算出す責任ある立場からすれば。そうではないですか。だから、私はこたえるためにこうしたのだと、謝罪文がありますけれども、あなたが言っていた言動とこの謝罪文は、内容が違いますよ、よく考えてごらんください。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 繰り返しになりますけれども、21年度の補正予算が先だということの中で、それがただされないうちはという部分があったものですから、そのただされないうちは、22年度の当初予算の議論はできないというようご指摘だったと思います。したがって、撤回ということで処理をお願いしたということでございますので、ぜひその部分について、ご理解をいただきたいというふうに思っておりますが、いずれも私の不徳のいたすところということになりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○相場一夫議長 小倉議員。

○12番 小倉 修議員 私の不徳のいたすところと、よくそれはわかっておりますが、当初予算と補正予算、その補正予算も3,000万円の間違いと。どうしようかと頭にあったことは確かかもね、あなたもね。でも当初予算と補正予算、今後の予算の編成、補正にしても当初にしても。考え方というか、当初予算1年の邑楽町の予算を決めるところなのです、当初予算というのは。補正予算は補足することなのでしょう。足したり削ったり。その考え方が首長としてあなたは甘いのではない

のかなと私は思っています。そう思いませんか。出してだめだ、撤回してしまおうと。そうではなくて、当初予算ってこういうことだと考えていないでしょう。補正が通らなければだめだと。それは、議員というのは、町の姿勢や疑問を正すのですから、これは発言しますよ。それをあなたが当初予算を出す考え方と、それがなくて言ってしまっただけはおかしいでしょう、議員の中身の中で言ってしまっただけは。邑楽町の当初予算というのはそんな軽いものではないでしょう。それが原因だから私は撤回したのだと書いてありますけれども、あなたの言っていたことは、さっきも言ったけれども、1回出した予算、課の設置条例は否決になって、そのままそれに関連する内容があるかもわからないけれども、このまま審議していただきたいと、何回言いました、あなたは。もうちょっと首長ならやはり当初予算提出に上程した中で、責任を持った中で、考えを持った中でやるべきだと私は思いますよ。あなたは軽々と世の中、何か違いますよ。裁判で負ければ放棄してしまおうと、そういう性格ですから、あなたは。何か違うのではないですか、首長としての考え方が。だったら、もうちょっと謝罪文を考えてつくったらいかがですか。できる限りその指摘にこたえようとした結果でございますと。この指摘した結果、議員が指摘したから結果でございますから撤回したということになるでしょう。その前に自分の首長としての姿勢をしっかりあなた持ったほうがいいですよ。これからもこういったことが起きますよ。人の財布の金だと思っただけから。そうではなくて、税務課長だったって、税務課だったって、大変な思いをして、自主財源ではないけれども、税金を集めているのです。税金の使うほうも、もっともっと責任があるのです。納めるほうも責任があるけれども、使うほうはもっともっとあるのではないですか。最少の経費で最大の効果ってよく使えますけれども、首長としての考え方が、私はちょっと薄いのではないかなと。この謝罪文見ればすぐわかります。自分のことではなくて、方向が違うでしょう。もうちょっと考えた中で謝罪したほうがよろしいかと思えますよ。

いずれにしても、結果的に最後に、「私の不徳のいたすところ」って書いてありますから、十分反省して考えなければならぬ問題だと私は思っていますけれども、周りに各課長がいますけれども、首長としてあなたどこか欠陥があるのではないですか。

終わります。

○相場一夫議長 横山議員。

○13番 横山英雄議員 あくまでも9日に否決になったもの、それが一番根本にはあるのですからね。だから、それを謝罪をして訂正をして、もう一度議会に。何度も言いましたよ、私は。それを一度出したのだから最後は開き直って、議員が否決をしたのだから、修正案を議員が出せばいい、そこまでやったのですよ、あなたは。だから、それに対していろいろ出るのですよ。初めから謝罪をして、訂正をします。9日に否決になったのですから、18日までには幾らでも訂正はできるのですよ。そういう姿勢がない、そして6月の補正で修正します、議会をなめ過ぎていますよ。これは、謝罪にはなっていませんよ。どうですか、課長もこれでいいと思っているのですか。課長は、ほとんど

全協の場にいるのは、堀井総務課長だけです。ほかの課長は、全協の場にいませんから、全協でどんなことが話し合われて、どこまであなたが突っ張っていたか、反省することは1つもないですよ。この謝罪文でいいと思う課長いますか、手を挙げてみてください。

○相場一夫議長 田部井議員。

○5番 田部井健二議員 町長にお願いがありますけれども、今、小倉議員と横山議員が言うとおりに、もう少し明快にきちんとした謝罪文に直して、ぜひ出し直しをしていただきたいと思います、きょうじゅうに。それを条件に、時間も押してきていますので、審議を続けていただきたいと、私そのように思いますけれども、いかがですか。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 3月9日ということの冒頭の話がありましたが、私のほうでは、最初地方財務事務提要の中で、議決、それから修正どうのということがあったものですから、その議決をいただいた後に補正でというお話はした経緯はあります。その部分について、それが原因だということであれば、書き加えをするということを考えていきたいと思いますが、そのようなお答えでよろしいでしょうか。

○相場一夫議長 田部井議員。

○5番 田部井健二議員 いいですか、謝罪文で出すのであれば、言いわけがましいこと入れないのですよ。きちんとした謝罪文にして出し直しをするのですよ。そういうお願いをして審議を続けてくださいと、そういうことを言ったほうがいいと。書き直しをするのではなくて、きちんとかわりやすい、はっきりとした謝罪文の形にして、ほかの議員から言いわけがましいことを言っているのではないと、そういうことを言われぬようなきちんとした謝罪文にして出し直しをしてください、きょうじゅうにというお願いをしているのです。

〔「そのとおり、議事進行」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 そういうことをもとにして、きょうじゅうに提出をいたしますので、よろしく願いいたします。

○相場一夫議長 遠藤議員。

○2番 遠藤幸夫議員 私は、もう少し違った考え方を持っていて、実は今のこの謝罪文を見ますと、結果として地方自治法第211条第1項の規定に抵触する事態ということのみずから認めているわけですが、我々、町長、またそこにいらっしゃる課長、そしてここにいる議員、すべての公務員というのは、これは憲法の第99条で、憲法を尊重し、擁護する義務を負っている。また同時に、法令を遵守する義務と責任があるわけですね。そういう中で、みずから町長が地方自治法に抵触する事態となりましたということは、町民の方もすべて法律だけではなくて条例ですね、いろんな町税も含めてですけれども、そういった条例の中でそれを守っているのですね。守ってください、

ぜひ滞納なんかしないでくださいよと言っている立場なのですよ、ここにいる全員が。そういう人のことも考えてみますと、この事態をそういったことで認識していらっしゃるということは、この謝罪文だけでは、私はやはり物足りないなという気がします。当然改めて深くおわびすると同時に、その責任についてもきちっと明文化して、それなりの責任もやっぱり表明する必要があるかなと私は思いますけれども、いかがでしょうか。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 先ほどもお答えしましたが、十分検討を加えた中で本日中に出させていただきます。

○相場一夫議長 小島議員。

○10番 小島幸典議員 私は、先ほど田部井議員が話された提案、これを指示します。なぜかというのと、大変町民に対しての迷惑というか、ご迷惑かけている。であれば、やっぱり一般会計予算のほうの中の審議を優先して、町長も謝罪文を書き直すというようなことであれば、そういう予算のほうを先に進め、審議を先にやってもらいたいと思います。そういうことでお願いします。

○相場一夫議長 一般会計の歳入全款についての質疑を行います。

52ページまでですけれども、石井議員。

○17番 石井悦雄議員 いや、そうではないの。今小島議員がおっしゃったけれども、田部井議員もおっしゃっていたきょうじゅうにというのは、ちょっと変則ですよ。終わった後出されたって、これね、そのまま預かるだけです。いいとか悪いとかという話し合いはできないですよ。当然休憩を挟んで出すほうが、私は正しいやり方だと思います。

○相場一夫議長 小島議員。

○10番 小島幸典議員 私は、こういう議会というのは、やはり自分の意見をどんどん言っていると思うのです。だから、そういう流れの中で田部井議員も私も、まずはやっぱり予算の審議、これがやっぱり町民に対しての最高の仕事だと思います。それから先ほど話された謝罪文のことは、十分みんなでまた討議すればそれでいいのであって、私はそういう意見で、議会ですから、私はそういう意見を述べます。

以上です。

○相場一夫議長 石井議員。

○17番 石井悦雄議員 確かに議場ですから、その人なりの考え方を発言するのは結構です。でも順序というものがあります。順序というものが。こういった問題があるからこそここでつまづいているのでしょうか。そうではないですか。だとするならば、やはりすっきりした形の中で新しい予算を審議するほうが、私はよろしいと思います。

以上です。

○相場一夫議長 執行部、時間どのくらいとりますか。

ただいま町長のほうから、書きかえるということでございますけれども、この関係につきまして、

皆さんのご意見まだありますか。

小倉議員。

○12番 小倉 修議員 まずもって議場の場で法律が違反していることをやっってはまずいでしょ、議長。違反ではないか違反か、ちゃんとわからないわけ。法律違反しているのも憲法違反しているのも自治法違反してもいいでしょうってわけにはいかないでしょう。いいのですか、それで。議長、採決してしまって。法律違反という、彼は法律違反だと言っているのですよ、憲法九十何条からのどうのこうのって。

○相場一夫議長 書きかえるということです。

○12番 小倉 修議員 だから、なんで書きかえるのですか。法律違反だから書きかえるのですか。

○相場一夫議長 書きかえるということです。

○12番 小倉 修議員 遠藤議員が言ったのは、法律違反だっていうことを言っているのです。

○相場一夫議長 そのことも含めて。

○12番 小倉 修議員 そのことも含めてですか。それを早く言ってもらいたいですよ。

○相場一夫議長 よろしいですか。

○12番 小倉 修議員 あなた人よりか高いところにいるのだから。

○相場一夫議長 よろしいですか。

そのほかありますか。

小沢議員。

○6番 小沢泰治議員 とにかく2月の15日、26日、全協がありまして、議会がこういう格好で9日から19日まで進むのだということが前提にあるわけですから、それを念頭に置いてこういう事態になったこと、それは原因があるわけですから、その辺を町民が見て、町民が聞いて、新聞でただ見るだけでなく、はっきりわかるような文章を書いてということですよ。そして、結果として、地方自治法211条の云々とありますけれども、これについても、例えば書き込むとすれば、括弧書きして、これはこういう、4月1日以前、20日前までに提出しなければならないと、提案しなければならないという、それを括弧内に書いて、町民が見て、ああそういうことで邑楽町議会がもめていたのだ、それがわかるような文章を書けということですよ。そうではないですか。

○相場一夫議長 そのほかありますか。

小倉議員。

○12番 小倉 修議員 私も勉強不足で申しわけなかったのですが、地方自治法第211条第1項と、私はわかっていたのです。それから行政事例、これもわかっていた。先ほど私申しましたように。しかしながら、憲法99条まで私わかっていないのですよね。だけれども、憲法99条と地方自治法の中で絡めた場合には、これが本会議上で出た場合には、これはまずいなと思いますが、私は行政事例とそれから地方自治法に関しては、ほんのわずか勉強していたわけでございますけれども、その

中で町長が第1項の規定に抵触する事態となりましたということを書いてあるわけでございますけれども、そうなってくると、憲法が出てくると。そうなる私との能力ではとても判断しかねると。遠藤議員の言うとおりだと、私は思っているのですが、私も今度は憲法まで勉強しようかなと、教わるかなと思っているのですけれども、町長もぜひそこまで勉強してください。

○相場一夫議長 そのほかありますか。

暫時休憩いたします。

〔午後 6時38分 休憩〕

○相場一夫議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

〔午後 7時15分 再開〕

○相場一夫議長 謝罪文を配付させます。

〔謝罪文配付〕

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 ご指摘をいただきました後の謝罪文、訂正をさせていただきます。

前の配付いたしました謝罪文については、差しかえということでお願いしたいと思いますが、よろしく願いいたします。

○相場一夫議長 それでは、回収します。

〔前謝罪文回収〕

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 それでは、改めて謝罪文を申し上げます。

このたび、町議会平成22年第1回定例会におきまして私が提案いたしました平成22年度一般会計予算外各予算につきまして、原案を撤回し、第1回臨時会において再提案いたしましたことにより、結果として地方自治法第211条第1項の規定に抵触する事態となりましたことをおわびいたします。

このような事態を招いた原因は、第1回定例会において、邑楽町課の設置条例が可決成立しなかったことを受け、私が予算案の訂正をする方法を選択せず、当初提案のまま議決を求めることに固持したことにあります。その結果、議員の皆様にお手数をおかけし、また町民の皆さんにご心配をおかけしたことは、まことに私の不徳のいたすところであり、このような事態を招きましたことを改めて深くおわび申し上げます。

平成22年3月29日、邑楽町長 金子正一。

よろしく願いいたします。

○相場一夫議長 このような形でよろしいでしょうか。

小倉議員。

○12番 小倉 修議員 謝罪文の中で、この22年度当初予算の撤回に絡んだ中でのこの謝罪文でござ
います、私午前中だったですか、話しましたように、21年度の補正予算につきましても3,000万
円の減額の間違い、そして増額を今度はお願ひしたと。そしてまた、教育委員の関係についても、
また説明書、俗に言う謝罪文みたいな形の中で私どもに送ってきております。そういったしますと、
文章だけで解決することも大切ですが、やったことに対して町長はどういうような責任をとるのか、
おとりになるのか、そういったことを私先ほど午前中お話ししましたが、謝罪文、それから21年度
の補正予算の間違い、そして教育委員にしては議案を取り下げたと、議員に配付してから。なんで
もかんでも間違いだらけ。それに対する町長のこれからの挽回に対する考え方をお聞かせ願ひたい
と思います。書面だけではなくて、私はこれからこうやってやっていくのだというような町の方向
性を決めるあなた首長なのですから、ただ文章出すだけではなくて、おわびとともに、謝罪とも
に自分の反省をその口から、議員が納得するようにお聞かせ願ひたい。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 数々の不備な点がありました。その点については謙虚に受けとめまして、これから
以後そのようなことがないように誠心誠意努めていきたいと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 そのほかございますか。

細谷議員。

○15番 細谷博之議員 小倉議員から町長に対しての姿勢に対して質問がありました。それに対して
町長が答えたわけですがけれども、もし小倉議員が町長の答弁にもし納得できるのならば、ぜひ審議
を進めていってほしいと思います。よろしくお願ひします。

○相場一夫議長 小倉議員。

○12番 小倉 修議員 議会運営委員長の今のお言葉は、しかと承りました。議事進行をお願ひした
いと。ただいいかげんに進行ではないのです。私も今細谷議員の言葉を受けまして、しっかりとこ
れからやっていくということでございますので、これからは責任も大きくなるでしょう、今度
は議会運営委員長も絡めた中でやっていきますので、しっかりとお願ひしたいと思ひます。よ
って、議事進行のほどをお願ひしたいと思ひます。

○相場一夫議長 進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 遠藤議員。

○2番 遠藤幸夫議員 先ほど私お話ししたとおり、すべての公務員というのは、もう法律を守る義
務があるのですね。ここの中でみずからその自治法に抵触するという自分でうたっておきながら、
これから町民の方も条例は守ってくださいということで、いろいろお願ひをするところではあるで
しょうけれども、もう守らなくなっているのだ。抵触してもしようがない。罰則があったらではど
うするのですか。今回のこの自治法については、特に罰則は設けられていないのですね。かとい

てその政治的な社会的責任は、私はやはりあると思うのです。それでも町長がいいのだとおっしゃるなら、それもいいかなとは思いますが、町の中が収拾がつかなくなってしまうのではないかなと思いますし、職員の規範も保てないのではないかなと私は大変心配をしております。あとは、町長のほうで選択をしてください。

以上です。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 決して決まりを守らなくていいというふうな考え方はございません。これからそういったことがないように襟を正して仕事に当たっていきたいということで、その責任を努めていきたくと、こんなふうに思っております。

以上です。

〔「議事進行」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 それでは、進行いたします。

一般会計の歳入全款についての質疑を行っております。予算書では52ページまででございます。52ページまで質疑ありませんか。

石井議員。

○17番 石井悦雄議員 私は、今の町長が町長になってからの施政方針等を、実は目を通して、3カ年の内容について目を通してきました。その中で、言葉は確かにいい言葉なのですね。希望と安心の国、これは町だと思えますけれども、あるいは自立と共生とか言われた年もございました。また、今年度の内容については、依存財源に頼るかのような内容でもございます。私は、こんなふうに考えておるのですけれども、これは、個人の家庭と何ら変わらないと思うのですけれども、依存財源に頼るといふ今日の厳しい財政の中ですから、それが全く悪いとは申し上げませんが、頼ることに努力をします。何かこの言葉がちょっとひっかかったのです。むしろ自主財源のほうに精いっぱい頑張ってもらう、そういう考えで町行政の運営をしていただきたいなと、そんなふうに思うのですけれども、どうですか。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 議員が言われますように、自主財源をこれは求めて大切にしていかなければなりませんし、依存財源ということは、例えば事業を行う場合に、できるだけ国、県等の補助金あるいは負担金等の部分があれば、できるだけそういった法制度を利用してやっていきたいと。できるだけ自己財源も含めてですが、それ以上にそういった補助金等負担金等を利用するということ、やはりこれも必要ではないかということでありまして、決してそれに補助金にということ、依存するということができるものは、そういった形で活用していきたいというふうな思いですので、もちろん

自主財源の中での運営ということは、そのとおりであります。活用できるものは活用していきたいと、そういうような考え方でございます。

○相場一夫議長 石井議員。

○17番 石井悦雄議員 一般論で申し上げます。わかりやすく言えば、財源が少なくなればなるほど厳しいわけですから、そのときには、そのときでは遅いのかな。支出のほうをこれはもう考えるべきだと思います。何もかも要望があったからそれにこたえる、こたえる気持ちはよくわかります。でもないものは、そでは振れないのですから、お金がなければ。その辺をもっと謙虚に受けとめてほしいと思います。そんな中で、説明を何回か聞かされた中で、ちょっとわからない部分があるのですから、町長にお答え願いたいと思うのですけれども、3点ほどちょっとお尋ねしますけれども、改訂版という中を、この用紙を見ていただければとわかると思います。決して難しい質問ではございません。よろしいですか。上の欄に地方特例交付金、これが69億9,000万円の予算のときと比較して若干変わっていますね、数字が。わかりますか。それと、もう一点、県支出金の関係でございますけれども、これも数字が変わっております。もう一点は、国庫支出金の関係でございます。当然69億9,000万円から69億8,142万6,000円になったのですから、変わる理由はあるでしょうけれども、ちょっとこの3点について納得というのか、自分で理解できない部分があるのですけれども、この辺の内容について、わかりやすく説明を願えればありがたいと思いますけれども。ちょっと失礼ですけれども、私は町長に伺っているのです。申しわけないですね。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 細かい点について、ちょっと十分な点が把握できていませんので、総務課長に答弁させていただきたいと思います。

○相場一夫議長 石井議員。

○17番 石井悦雄議員 私が町長にお願いするというのは、委員会が総務・文教常任委員会なので、正直言って。ですから、総務課長の答弁は要りませんという考えのもとに町長にお願いすると。もう一つ、こんなこと言うちょっと失礼な言葉になるかもしれませんが、これは私は何回か使わせていただいた言葉なのですけれども、町長は長年行政マンとして今日までやられてきたわけですから、その辺も含めて、町長からぜひ答弁をお願いいたします。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 それでは、補足の部分については、申しわけありませんが、総務課長に答弁させますが、国庫支出金については、これは先ほど総務課長のほうからの説明にもありましたが、子ども手当の負担金が1億124万円ほど前の数値より少なくなっております。これは、子ども手当について、当初全額国庫負担ということで見ていたものですから、それが国のほうの制度が決まったということで、子ども手当の部分について国庫負担金が、数字が変わったということでもございます。

それから、県支出金については、やはり全額国庫でということで見ておりましたが、これが国の

ほうでの地方負担ということになりましたものですから、県支出金の県負担金、民生費負担金の5節の子ども手当負担金が5,062万円ほど変わったというものでございます。

それから、特例交付金の部分についてですが、8款の地方特例交付金が2,700万円ほどプラスになっておるかと思えます。これについても、差額ということで2,030万円ほどふえているというのは、やはりこの国のほうから子ども手当の分として多く歳入が見込めると、そういう内容でもございます。

○相場一夫議長 石井議員。

○17番 石井悦雄議員 今町長が答えられた内容であるかなと、私もそんな感じはしたのです。その中で、ではあえて聞きます。これは、これも町長にお願いします。今回の提案の中で削除されたものは、金額にして300万円ですかありますよね。これも学校教育課長がおりますからですけども、細かなことを申し上げなくてもわかると思えますけれども、去年の7月でしたか8月でしたか、子ども議会があった席で、時の教育長は、子供の質問に対して、期待にこたえるとか前向きに考えますとか、当然委員会においても、ぜひお願いしますよという言葉でした。にもかかわらず消えてしまったのですね。これは、当然町長が判断したことだと私は思っております。その辺の問題について、どのような考えのもとに、これは言葉そのものが歳出に入ってしまうかもしれないけれども、削除された問題ですから、町長の判断したときの考え方をぜひお聞かせ願いたいと思えます。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 歳入の部分では、17款の繰入金の基金繰入金の中での4目のふるさと振興基金の繰入金というところに関係するのかなと思えます。それが約300万円ほど繰り入れを少なくさせていただきました。その原因はということで、歳出のほうでまたご質問ということですが、せっかくの機会ですので、なぜそれを減額にしたかという考え方ですが、最近の状況が1つはあるわけですが、当然保護者の方からのこれを実施する場合に、負担金ということも大変大きな数字があるわけですから、どれくらいかかるかはちょっとわかりませんが、大変な負担になるだろうと。大変な長引く不況の中での状況ということが1つあります。

それから、新型インフルエンザの問題も、これは国のWHOの数値というのは、その世界的な大流行フェーズ6というのが、まだそのまま解除されていないというようなことがあります。当然当初のときもそのような考えあったわけですが、これから冬に向かうということにもなりますので、そういった状況を考えて削除させてもらったということでございます。

○相場一夫議長 まとめでよろしくをお願いします。

○17番 石井悦雄議員 町長が今言っていること、何か先ほどもおっしゃったように、信頼できないというのはそこにあるのですよ。この3月定例会においては、この問題だけではないのです、正直言って。そんなこと言うとまた悪口みたいに聞こえるかもしれないけれども、現実はそののです

から。私は、ありのままを申し上げますけれども、実際に先ほどもどなたかおっしゃったけれども、教育委員の人事の案件から、数字の誤り、課の設置の関係、いろいろありましたよね。それは、申し上げるまでもなく、本人がよくわかっていると思うのです。ただ、わかっていることを聞き流すのではなくて、真摯に受けとめてほしいと思うのです。そうでないと託せないですよ。都合が悪ければ引っ込めてしまえばいいのだろうか、削除してしまえばいいのだろうか、一部の人に言われたから、では、やめてしまおうとか、そういう安易な考えは、私は町のトップになったら、100% なかなかいいと言われたいのです。議員だってそのとおりです。完璧な人いないのですから。ですから、自分がこうと思ったら最後まで、最後まで誠意を持ってしっかりした信念を持って通してほしいと思います。これからもこういう問題が多発する可能性だってあるし、ないと言ったらうそだと思います。もちろんないのが一番理想なのですよ。でも今の町長の考え方からいくと、何か不安なのです。私が不安ということは、町民だってそうだと思いますよ。そういうぶれるようなことのないように、しっかり今後やってほしいと思います。

以上です。

○相場一夫議長 そのほか質疑ありますか。

本間議員。

○14番 本間恵治議員 今石井議員が言いましたけれども、私は、そのことについて、担当課長にも言ったことあるのですけれども、せっかくやるのであればもっと補助金を出して、だれでも行けるような対応をとってやったほうがいいのではないかと。そのぐらい特色を出して、町長として子供たちをそういうところに研修させたいのだという姿勢があるのであれば、私はもっと予算をとってやってしかるべきだというふうにも言いました。あなたが出して、それで予算書直すときに、みずから削ってということ自体が、私は本当にあなたの主体性を疑いますよ。実情であれば、学校側とすれば、もう申込書をつくって、議会が通ったらすぐ配るところまでいってるらしかったですよ。それを決めるまでには、教育委員会の中でもいろいろ議論をした中でやるようにということで打診があったわけでしょう。ただ、予算をつけるのは町長部局ですから、町長が前と同じ現額の10万円ということで判断したのでしょうかけれども、でも私はこういう現在のいろんな社会情勢ですから、もっともっと補助をしてやらなければ、立派な裕福な家庭の子供しか行けないのではないかなというふうに私は想像していました、最初から。でも、それをやろうとする、そういう提案を出した時点で周りの人がみんな動いているわけですよ。それを当てにした子供たちだっているから、その子ども議会において、教育長が前向きの判断をしたということを受けて町長もやろうとしたのでしょうか。それをなぜそういう形の中で挫折するというか、取り下げってしまうのか、私には解せないです。それを町長がみんなを説得してでも、子供たちのためにということであれば、私は本当に何とかなるのではないかなと思うのですよね。

〔課長に聞け、課長に〕と呼ぶ者あり〕

○14番 本間恵治議員 いや、課長は、本当に一生懸命だったのです。お願いにも担当の所管には回って歩いた話も聞きました。でもそういう形の中で、やはりある意味ではそれが22年度の目玉になったのではないのかなというふうに私は思うのですよ、新規事業ではないけれども。2年間休みましたからね。そういう部分では、私は唯一の事業かなというふうにも思っていました。ですから、このことについては、やはり信念を持って、逆にみんなを説得してでもやろうという、やっぱり町長の姿勢がやっぱりみんなの気持ちに伝わっていくと思うのですよね。それを提出する前に取り下げる、なんで取り下げるのだろう。大義名分今町長言いましたけれども、私は前回のときも、もう新型インフルエンザの関係で真っ先に取り下げましたよね。でも、そういうことからすれば教育委員、教育委員長が映画会やった。それは何ともなかったから、町長だってそのときに言ったでしょう。マスクと手を洗うあれが用意してあったみたいですよって。そういうふうにかばっているでしょう。今度は、そのさなかに、向こうが冬になるからとか言っていますけれども、その情勢を見きわめるといのは、それは早く結論を出さなくてはということになるのでしょうかけれども、日本においても、新型インフルエンザ、ずっと流行してきていますけれども、大過はないのかなという情勢からすれば、何とか子供たちのためにということも、私は考え方はあったと思うのです。そういう部分で、人の顔色を見ながら、自分でうまくないから取り下げるとか、そういう判断を勝手に私はする必要ないと思うのです。それだったら逆に議会に投げかけて、議長を中心に、私はこう思うのだけれども議会としてどうだろうと、逆に前もって打診したっていいわけでしょう。それすらなくていつの間にか取り下げた、それでは前向きに検討する機会もないということですよ。自分一人で判断しているわけですから。それに対していろんな人が私は携わって1つの事業をなし遂げようと思って動いているわけですから、そこを十分に考えた中で、これからのこともきちんと対応していただければと思います。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 ご意見をいただきましたように進めていきたいと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 そのほか質疑ありますか。進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 進行いたします。

次に、歳出の第1款議会費、第2款総務費、第3款民生費について質疑を行います。予算書では53ページから112ページまでとなります。質疑ありませんか。

第1款議会費、第2款総務費、第3款民生費についての質疑です。

進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 進行いたします。

次に、第4款衛生費、第5款労働費、第6款農林水産業費について質疑を行います。

予算書では113ページから140ページとなります。質疑ありませんか。

石井議員。

○17番 石井悦雄議員 新たな事業について町長にお伺いいたします。

予算書の144ページの中ほどに……

○相場一夫議長 140ページまでです。

○17番 石井悦雄議員 済みません。

○相場一夫議長 ほかに質疑ありませんか。

第4款の衛生費、第5款労働費、第6款農林水産業費でございます。

進行してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 進行いたします。

次に、第7款商工費、第8款土木費、第9款消防費についての質疑を行います。

予算書では139ページから162ページまでとなります。質疑ありませんか。

横山議員。

○13番 横山英雄議員 質問に入る前に町長に確認をしておきたいことがあります。町長が答弁等でよく使う言葉で、町長の解釈、どのように考えて使っているのか、その辺のちょっと、6つほど聞きたいのですが、まず検討という言葉、それと道筋、精査、研究、努力、推進、このことについてお伺いします。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 推進というのは、これから進めていきたいということです。それから、努力については、これはそのとおりで、これからのその部分、課題となる部分について力を注いでいきたい。それから研究ですか、研究については、いろんな問題等があるかと思いますが、それらについて十分研究を重ねていく中で、実施に向けていくか、それをそうでなくするかということでの調査ということになるかと思えます。それから、精査については、細かくその内容について、やはり調査をするということになるかと思えます。それから道筋ですが、それはいろいろな課題が、あるいは進めていこうとするものについて、一定のルールといいますか、それらをもとにして、できるだけその課題解決のために進めていくということに考えております。それから、検討というのは、いろいろ検証、その課題について検証し、討議を深めていくというふう理解しております。

○相場一夫議長 横山議員。

○13番 横山英雄議員 わかりました。所管ですので、町長に質問をします。

町長がまだ議員のときの平成19年度3月定例会において、町営住宅建替基本計画策定委託料228万9,000円を盛り込んだ一般会計予算が可決されましたね。町長は、賛成ならばこっくりしてください。反対なら首振ってください。賛成しましたか。いいのですよ、こっくりで。

〔「ちょっと記憶が定かでないので」と呼ぶ者あり〕

○13番 横山英雄議員 ああそうですか。いいですよ、それで。それで、19年の7月23日午後1時半より共同福祉施設の2階において、件名石打町営住宅建替基本計画策定業務ということで、第1回の町営住宅運用管理委員会が開催をされました。議会からは、当時議長でした私と加藤建設・経済常任委員長、そして小貫俊男区長会会長、天谷雄一土木委員会会長、原口光明民生委員児童委員協議会会長、遠藤初恵邑楽町立保育園保護者会連絡協議会会長、そして石井征彦邑楽町副町長、諸井政行福祉課長、事務局として横山正行土木課長、赤坂係長、石原主任のメンバーで5回検討委員会が行われました。2回目からは、入札決定業者、山田工務所の田中さん、木下さんが加わり、運用管理委員会が開催されました。石井副町長においては、19年12月19日に辞任をされました。町長選挙の結果ですね。そして、20年3月21日の最終委員会が行われて、金子町長に町営住宅管理計画答申書が行っていますよね。そして、21年の施政方針では、町営住宅建替基本計画に基づき、石打団地の建て替えの検討を継続しています。そして、21年も全く同じこと。ことしの22年度は21年と同じですが、その後に既存の民間賃貸住宅を借り上げて、町営住宅として活用をする手法について研究をしていきますとなっておりますよね。22年2月9日、ジョイハウスの2階で全国都道府県議会議長会元議事調査部長、野村稔先生の「議会運営とその実態と事例」の講演がありました。町長、聞きましたか。ないですね。その中で1つ私も勉強になったな、なるほど金子町長はだからこの検討、検討をいつも使っているのだなど。検討というのはやる気がないと。やらないということですよと講演で言いましたね、その先生は。そうですよね、3年たって検討から今度は賃貸住宅を借り上げて町営住宅とすると、そういう研究もとまた逃げましたね。やる気があるのですか。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 今議員が言われますように、20年3月21日に当時の町営住宅運営管理委員会の副委員長であります横山当時議長だったと思いますが、から邑楽町の町営住宅管理計画についての答申はいただいております。その後どうするのかということではありますが、21年の中では、建て替えを検討するというようなお話ではありますが、これは答申は尊重していかなければなりませんし、議員が言われますように、基本計画等の策定に向けて予算も執行しているところでもありますから、ただその当時といたしますと、いろいろ大変な費用負担があるということで、そのままといいますか、今日に至っているわけですが、さてこれをどうするのかということですが、これは財政担当、それからじかに担当する土木課のほうとも協議をいたしました。でき得れば来年度23年度にはその財政が許していただければ、実施設計といいますか、建築のための具体的な設計に入っていければと、こんなふうに思っております。

○相場一夫議長 横山議員。

○13番 横山英雄議員 それでは、検討というのは、基本設計ができてから3年たって、それから実施設計に向けて財政が許せばやると。町長の任期は多分4年だと思うのですが、もう2年3カ月で

すね。任期中にできるのですか。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 大きな予算が伴うものですから、単年度事業ということにはならないで、何年かの継続的な事業になろうかと思えます。そこで、任期がないのではないかということでもありますから、現時点で申し上げれば、私の任期の中では、その分については完成ということにはならないかと思いますが、考え方として、姿勢として、そのような考え方で進めていきたいということでございます。

○相場一夫議長 まとめをお願いします。

横山議員。

○13番 横山英雄議員 先ほど一番最初に聞いたように、検討とか道筋とか言葉巧みに、やる気がないのにただ引っ張ったり、そういうことがとにかく多過ぎますね。だから、いつまでにやるのですかと聞かないとだめですよと、野村先生が言っていましたね。いつまでですか。いいですよ、3回やったから4回目ね。言葉を巧みに操って、いろいろうまく使って、ごまかすようなことをしないように、やるならやると、いつまでにやると、はっきりこれからやっていったほうがいいですよ。できないならできないと、はっきり、頼みますよ。

○相場一夫議長 ほかに質疑はありませんか。

本間議員。

○14番 本間恵治議員 今横山議員が言いましたけれども、このことにつきましては、全員協議会で議論しましたね。そのときには、もう凶面はこれ以上変えられないのだと。もうそのまますぐにもできるような話で私は終わったと思っているのです。ですから、次の議会に上程されて、そのまま当然着工するような運びになるのだろうなというふうに思っていました。それがいつになっても立ち上がらない、今年度は予算がついていない、来年度は考える、そういう今の町長の答弁でしたけれども、私は300万円近いお金を使って設計をさせておいて、それを例えばそのままとめるようなことがあれば、これはお金を捨てたことになるのですよね。町民の血税ですから。それが間が切れるということになると、本来であれば、継続事業で持っていくのが私は筋ではないのかなと思うのですけれども、それを1回切って、それでまた来年度財政が許せばやるというふうな答弁ですけれども、決してそういう対応が私はいいいとは思わないですね。そういう部分では、ではなぜ全協にかけたのだろう。みんな議員の皆さん南向きではなくてはだめだとかいろんな意見が出ました。ですが、地形のこともあって、最善の形がやや南に向けた対角線の建物だと。半分ずつ、半分建てて半分また増築するような形で建てるのだと。そうすれば、今住んでいる人たちがそこに、半分できたら住めると、そういうふうなことまで具体的に話したわけですよ。ですから、私は次の定例会には、当然それが提案として出てくるのではないかなと思ったら、いつになっても出てこない。それを立場上は、横山議員が議長のときでしたから、それを町長のほうに上程してあるのだと思うので

すけれども、それが途中で断ち切れていると。このことについては、やはりその町長の姿勢も疑われると思うのですよね。何でもそうですけれども、本当にそれをやる気があるのであれば、当然どんな形でも継続させていくのが、私は町長の立場だと思うのです。それが切れて、来年度は予算がもし許せばつくるといふ、そういう姿勢では、やはりやるかやらないかわからないものを担当に任せてやらせておいて、そのまま予算ができるまで待っているというのは、やはりそれは姿勢が弱過ぎると思うのです。ましてやその何らかの形で県の補助とか出ていると思うのです、形の中では。だから、やっぱりそれには最初の意向を全うするようなやはり努力というのを怠ってはならないと思うのです。そういうところについて、本当にやる気があるのかどうか、もう一度お伺いしたいと思います。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 計画書等については、無駄にならないように活用をしていきたいと思っています。それから、やるかやらないかということにつきましては、23年度の予算の中で計上させていただいて、実施するというところで考えております。

○相場一夫議長 よろしいですか。

ほかに質疑ありませんか。

大野議員。

○3番 大野貞夫議員 私は、このページでいきますと159ページ、今の問題とちょっと関連をしてみますが、8款土木費、5項住宅費、私は過日一般質問の中で、この町営住宅の問題についていろいろ私なりにアンケートをとりまして、いろいろ調査をしてまいりました。その中で、今同僚議員からのお話もありましたこの石打の町営住宅の建設問題、これは先ほど来からお話が出ていますので、私重複はなりますので、このことではなくて、いわゆる現在今1戸建て、あるいは長屋式の塙堀の住宅、それから大黒の第二住宅、これを合わせますと約130戸あるわけですが、これのこの節でいきますと160ページの上段から3分の1ぐらいのところですね、修繕料というのがございます。この金額が95万円という金額が載っております。これは、いわゆる町営住宅に入られている人の住宅の修繕だと思っておりますが、ご承知のように、130戸あります住宅は、既に耐用年数がもう切れておりまして、非常に過日私がいろいろ質問をした中にも、具体的に細かいいろいろこういう問題があるのだ、ああいう問題があるのだというようなことも質問をしたわけですが、この95万円という修繕費は、私は余りにもちょっとこれ少な過ぎるのではないかというふうに思うわけです。これは、ことに限らず、21年度においてもやはり同じ金額になっております。そういう中で、この金額の95万円ということに対して、町長はどのように考えておられるか、お聞かせいただければと思います。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 私にということですが、土木課長のほうで詳細はよろしいでしょうか。その95万円

の詳細について、土木課長のほうから説明させまして、その後私のほうで。

○相場一夫議長 横山土木課長。

○横山正行土木課長 お答えをいたします。

町営住宅の維持管理事業の中で修繕費95万円のことについてのご質問でございます。基本的には、議員おっしゃったように、管理戸数としては134戸ほど管理をしてございます。このうち議員からも出ましたが、埴堀住宅と大黒第二住宅の長屋式のもの、埴堀が40戸、大黒第二が32戸ほどございまして、合わせて72戸でございます。その他の部分につきましては、木造1戸建ての住宅ということでございますが、所管の課として努力しているものについて、修繕料を一定程度かけてきちんと修繕をしているものについては、冒頭に申しあげました長屋式の72戸について、ある意味抜本的な、例えば白アりに侵された部分の土台の部分の修繕であるとか、修繕の中では比較的経費のかかる部分について実施をしております。木造住宅については、できるだけ修繕費もかけない、いわゆる最終的には木造住宅については、やめていかなければならない、現状の木造住宅についてはやめていかなければならないという考え方のもとに、昨今の厳しい財政状況も踏まえて95万円という予算の中で、場合によっては、職員がみずから直営でドアの取っ手等をやれるものについては、実施をし、努力しているところでございます。

以上でございます。

○相場一夫議長 大野議員。

○3番 大野貞夫議員 どうもありがとうございます。この修繕費については、これは平成20年度の行政実績というのがございます。この中では、当時の修理費というのが183万1,669円、これだけ出ております。この件数なのですが、例えば久保林、石打、それから大黒第一住宅、ここは非常にこれはもう今土木課長が言われた、半ばもう修理はやらないと。結局そこが壊れて住めなくなったら出ていってもらうという形を今とっているわけですね。ですから、その20年度の行政実績の中では、わずか久保林で1件、石打住宅で1件、それから大黒第一住宅で1件、大黒第二住宅では13件、埴堀住宅では16件、こういうのが実績として平成20年度のいわゆる修理の現状がこういう状態です。過日の一般質問の中では、21年度の修理状況はどうかということに対して、これも土木課長のほうから、3月10日現在で8件、金額にすると80万3,300円出ていますという報告がございました。これ見ますと、やはり今の現状から見ると、住んでいる人たちは、なかなか財政が非常に厳しいと今土木課長のほうからもありましたように、修理の状況を仮に要請したにしても、非常に財政が厳しいということで、半ばもうあきらめているという状態ではないかと思えます。この間の質問の中でも、私の質問に対して、私はやはりそういう中にでも必要最低限、これだけは、このぐらいはやはり町のほうの責任として修理してやらなければいけないのではないかと。もうその家庭の中にはお子さんもおられるわけですから、そういう点で全くもうやらないというのではなくて、ある程度の最低限の修理というのは、今職員の方が行ってドアのノブを取りかえるとか、そういうこともや

っているのだということも伺ったわけですが、やっぱりきちっとしてある程度業者も入れて修理できるところはやるという姿勢がやはり私は必要ではないか、そのように思うわけです。この95万円というのは、先ほども言ったように、その件数からいいましても、余りにも私は少な過ぎるのではないか。その辺でこれをもう少し増額をして、予算に組み込むというような考え方は、町長ございますでしょうか、お伺いいたします。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 議員のご指摘の部分も多くあるわけですが、実は私も全部ではありませんが、町営住宅のほうへ行って現状を見てまいりました。その状況を見ますと、確かに大変老朽化をして、特に石打の町営住宅においては、入居者が大変高齢化をしております、大変な状況だということは聞いてまいりました。特に、これからの予算を必要最低限増額をとということではありますが、確かに134戸からの町営住宅ということになれば、これはその内容がどのような形でということの精査も必要だろうと思っております。したがって、担当のほうにその必要性ということを見きわめた中で、やはり直すべきところは直さなければならないでしょうし、順次その辺のところも考えていくように、担当のほうには調査をさせたいと思います。

○相場一夫議長 大野議員。

○3番 大野貞夫議員 今の町長の言葉をそのまま受けとめるとすれば、大変この問題について認識をされているというふうに、私はこの間の会議録、ちょっと今持ってきましたが、この中でもかなり町長は前向きな答えを私の質問に対してはやっているのですよね。ですから、先ほど来から出ていますように、検討をする、よく私の町長の答弁の中で、そういうのを何回か聞いております。検討するということは、やらないということと同じだというようなことを一般的にも言われていますけれども、ぜひとも今の現状を把握をしていただきまして、何回も言いますけれども、必要最小限の手当というものは、ぜひともやってほしい。その予算の増額については、今回のこのこれを修正するとかということでもなく、次への補正予算か何かの中でぜひ組み入れて、そこに住んでいる人たちの要望にぜひこたえていただきたい。このことを強く要望いたしまして、私の質問終わりたいと思いますが、一言最後に、もう一言町長から。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 ぜひ精査をいたしまして、要望にこたえるようにいたしたいと思います。

○相場一夫議長 ほかに質疑ありませんか。

小倉議員。

○12番 小倉 修議員 過日の一般質問の中で、私は富士山静岡空港の開港に合わせた中での質問を申し上げたことがございました。静岡の空港が開港目前で、前方の立ち木が航空法にひっかかると。その立ち木を切るために、切ってもらうために知事が辞職をしたと。よって開通になったというような質問をしたことがございます。その中で19号、邑楽町に関しては19号ですね、私毎日のように

あそこを通るのですけれども、バリケードが張ってあるのですが、6億近い事業費を使って、今度はいろんなところから陳情が来たと、開通の陳情ということで。やはり立ち木ではなくて、土地を協力願うわけでございます。私は、首長の姿勢というものが一番大事かなと思っておるわけでございますが、できるだけ早い中で話し合いによる円満解決をしたいとよく申しておるのですが、いつになったらあそこは私通れるのでしょうか、伺いましょう。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 いつという時期については、はっきり申し上げられませんが、地権者の方にできるだけ協力をいただくようにこれからも努めていきたいと思っております。

○相場一夫議長 小倉議員。

○12番 小倉 修議員 1つの事業の目的ですね、そして国の税金、町の税金を投入して、そこだけが残ったまま開通ができないと。開通をしないと。我々町民から見れば開通する努力はしていないのかなと。ただ反対だからしょうがないというような形の中で、あと10年も20年もあのままでいくのかなと。私一番手っ取り早いのは、あなたが辞職して責任とって考えれば地主はわかってくれるのではないのかなと、そんなふうに思っているのです。初めの言葉どおりに、やはり1つの事業推進するためには、それだけの考えを持った中で地主に、大事な土地です、お願いして、協力していただませんかというような気持ちがあらわれていないのかなと思うのです。ぷらっと寄りましてというような形らしいですが、大事な土地を協力してもらおうのですから、私も自分の腹を切った中で協力したいと。富士山の静岡空港も知事の決断により飛行機がブーンと通れたと。あなたの決断によって私が軽トラックでブーンと通れるようにしていただきたいなと。余り蜂が昼飯みたいなことで考えては困ります。これは、国の金も町の金もすべて税金でございます。あなた平成20年度は、何回も言うようですが、のど元まであそこの駐車場の整備をしたでしょう。あそこが開通になるのならあなた名誉ですよ。自分の進退をかけて、地主と交渉したらいかがですか。静岡県の元知事はすばらしい男ですよ、あなたも立派な男になるために、自分の進退をかけて地主のところへ行ったらいかがですか。

終わります。答弁は結構です。

○相場一夫議長 ほかに質疑ありませんか。

石井議員。

○17番 石井悦雄議員 先ほどは失礼いたしました。

予算書を見てください。144ページの中ほどに消費者行政事業がございます。これは、町にとっては、新しい試みかなと思います。それだけに責任を持って町民にこたえられるような、そういう事業になっていただきたい。とりわけこれは1カ月ほど前の新聞になって、ちょっと古いかもしれませんが、その後変化がなさそうなのです。県内において、4つの町と郡が1つ、1郡4町ですね、もしこの辺が変わっていたら訂正をさせていただきますけれども、まだこの状態でおるか

など思うのですけれども、この事業に当たって、町長大変すばらしい発想を持ったな、人並みのことやるのだな、そんなふうにも受けとめたわけでございますけれども、せっかくできるこの相談事業、これはさまざまな問題等が町内においてもあろうかと思えます。これについて、こんなふうにやりたい、ああいうふうにやりたいという町長の考えがございましたら説明をしていただければと思います。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 22年度から新たに始めるというところについては、吾妻地区の広域の中で、これが1カ所だと思えます。それから、町では玉村町、大泉町、邑楽町、あとそれから甘楽町ということになっております。22年度から開設ということです。どのような形でということですが、消費者行政については、大変町民の消費生活の部分でいろんな問題が相談として挙げられております。そういうことを考えたときに、やはりそういった被害を防止をする、相談を受けることによって未然に防げるということが大事なことでありと思っています。したがって、4月1日からそれを実施したいということではありますが、今町のほうでも大変多くの相談が、件数として昨年までに県の消費生活センターですとか、近隣の市に相談が挙げられております。したがって、身近なところで相談業務が行え、被害防止になればということで、相談員2名の方をお願いをして進めていきたいと。この相談員については、既に講習、研修も受けて、実技等も受けておまして、4月1日からはそういった相談業務が受け付けができるように進めておりますので、よろしく願いをいたしたいと思えます。

○相場一夫議長 石井議員。

○17番 石井悦雄議員 ただいま町長が申されたとおり、まさに私もそのとおりだと思っています。昨今の社会情勢が目まぐるしく大変な時代を迎えておるわけでございます。当然いろんな意味で難しい問題等もあろうかと思えます。その中で、予算ももちろん計上されております。これは、実施していただきたいと思えますけれども、難しい相談を受けるということは、今町長は、もうそれなりの講習等も受けていられる方だとおっしゃってございましたけれども、かなり知識がないと、これはこんなこと言うと相手方に失礼かなと思えますけれども、かなりの知識がないとなかなか即答と申しましょか、答えるのにまた責任もありますよね。そういう面では、お二人の方について、どうですか、町長が見た目では、この方なら心配ないと断言できますか。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 このお二人については、事前に担当とあわせて面接等も行っ、臨時職員として採用を決定したという経過があります。そういう点を考えれば、大変難しい部分もあるだろうと思えますが、この問題について、いろいろ対応していただき、もし問題等が解決できない場合には、県あるいは国のほうとの上部機関との連絡もきちっとするというようなことになっておりますので、必ずやそういったことにこたえていただけると、こんなふう思っております。

○相場一夫議長 石井議員。

○17番 石井悦雄議員 確かに邑楽町を含めて大泉、玉村、甘楽、吾妻郡ですけれども、これは何と申し上げたらいいのですか、困って相談に来るわけですから、これは正直言っていろんな意味で人生経験が豊富だとか、法的に明るい方だとか、言えば切りがないですけれども、相談に来られた方が納得して帰られるような、そういう相談相手であってほしいわけですね。また、そうでなくて困ってしまうわけです。今町長がいろいろ心配なさそうなことを言っておりましたけれども、今後難しい問題に直面したときには、上のほうとの関係でその辺を処理されていくと思うのですけれども、対応と申しましょうか、されるような話でございませうけれども、誤りのないようにぜひしっかりとやって、困った町民に対してよりよい相談相手になっていただけるようにご指導をお願いします。

以上です。

○相場一夫議長 ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 暫時休憩いたします。

〔午後 8時38分 休憩〕

○相場一夫議長 休憩前に引き続き会議を開きます。

〔午後 9時00分 再開〕

○相場一夫議長 次に、第10款教育費、第11款災害復旧費、第12款公債費、第13款諸支出金、第14款予備費についての質疑を行います。

予算書では161ページから236ページまでとなります。質疑ありませんか。

小島幸典議員。

○10番 小島幸典議員 191ページ、10款教育費、2目の11節から18節なのですけれども、この192ページの教育振興費ですね、これの教育振興事業が291万円、これ邑中の予算なのですけれども、それで同じく南中の予算が、これ194ページにありますけれども、この教育振興事業の南中が183万5,000円、それでその中で教材用備品購入費、これが邑中が128万4,000円、南中が93万2,000円になっています。この予算の生徒1人当たりの予算は、各中学でどのぐらいになっているかということをお聞きしたい。ということは、なぜかといいますと、教育基本法の中での教育機会均等法というのがありますけれども、これがかなり差が出ていると。これは、教育の均等法。要するに、平らではないのではないかと。その辺の1人頭のどのぐらい邑中と南中があって、それでもう一つ一緒に質問しますけれども、この教育の機会均等ということはどう課長は考えているか、その辺をお聞きします。

○相場一夫議長 河内学校教育課長。

○河内 登教育長職務代理人 学校教育課長 お答え申し上げます。

先ほどの教育振興費の中の教材用備品の購入費ということでございますけれども、基本的には、学校からその当該年度必要なものということで予算要求をしていただいております。ですから、学校で必要なものということで予算要求がございます。今の計上してあります予算で、概略ではございますが、生徒数でならしますと、邑楽中で約2,300有余円ですね、それから南中で3,500円程度、人数割でしますとそういう割合にはなると思います。それから、教育の機会均等をどう考えるかということでございますが、これにつきましては、当然だれにでも教育を受ける権利はあるわけでございます。当然それらも補償をされているわけでございますので、そういう形での私ども考えておるところでございます。

以上でございます。

○相場一夫議長 小島議員。

○10番 小島幸典議員 この教育機会均等の意味を町長はどう理解していますか、町長のほうから答弁を求めます。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 特に義務教育においては、教育を受けるということについての、等しく均等に受けられるように努めなければならないというふうに思っておりますので、学校教育課長が答弁したような考え方、同じでございます。

○相場一夫議長 小島議員。

○10番 小島幸典議員 大変貴重な意見、意見というか解釈をいただきまして、町長、教育長であれば、この1人頭の額がかなり違ってしまっていますよね、1,200円とか。これは大ざっぱに計算しますと。だから、そういうことを考えれば、本当に今貧富の差がすごく開いている。教育現場でもそうだと思うのですよ。給食費はこれから未納だとか、そういう心配もあります。そういう流れの中でチェックする、仕分けする立場の人であれば、当然弱者に対していかに優しい教育ができるか、こういうことをどう思いますか、学校教育課長のほうから答弁をもらいたい、現場として。

○相場一夫議長 河内学校教育課長。

○河内 登教育長職務代理人 学校教育課長 お答えを申し上げます。

例えば、議員のおっしゃる弱者というのがどういうのを指すか、ちょっと定かではありませんが、私どももこの予算の中に就学奨励児の予算等々で、例えば学費といいますか、お金に困っている方々につきましては、そういう補助をする予算も盛り込んでおりますので、今後ともそういう形で続けていきたい、そのように考えております。

○相場一夫議長 まとめをお願いします。

小島議員。

○10番 小島幸典議員 まとめでお話しさせていただきます。

今本当に子供の生活する環境、また学習する環境、閉じこもりだとか、そういう問題がすごく多く、ここ10年ぐらいで出ています。新聞社のほうからは、いじめの問題とか何かいつも出ています。そういう流れの中で、本当に何に一番お金を投入すべきか、援助すべきか、これは国でも子育て支援というのでやっていますけれども、知ってのとおり、5,000万円も邑楽町は足りないよということで、新たにきょうのこの決算書で出ておりますけれども、そういうことを踏まえて、本当にみんな議員も含めて、真剣にこれから考えるようにしたいと、またお願いしたいと思っておりますけれども、よろしくお願ひします。

以上です。

○相場一夫議長 横山議員。

○13番 横山英雄議員 予算書の206ページ、施政方針では16ページ、第10款の教育費、第5項社会教育費の中の中央公民館建設準備事業6万6,000円について、ちょっと説明願ひします。

○相場一夫議長 大肱生涯学習課長。

○大肱 一生涯学習課長 こちらに計上してある中央公民館の建設準備事業の予算の関係でございますけれども、消耗品費、燃料費、食糧費合わせて6万6,000円を計上いたしました。使い道に関しましては、会議資料印刷用紙や視察研修先への手土産等消耗品が1万8,000円、それと視察研修時のバスの燃料費が1万円、おおむね5回の実施予定の会議等の飲物及び2回実施予定の視察研修時の食糧費が合わせて3万8,000円となっております。よろしくお願ひいたします。

○相場一夫議長 横山議員。

○13番 横山英雄議員 それでは、16ページの施政方針の生涯教育、ホールを備えた中央公民館の建設等についての検討を行うとありますが、これはどういう検討をするのですか。

○相場一夫議長 大肱生涯学習課長。

○大肱 一生涯学習課長 検討委員会の設置の目的と申しますか、きょう予算のほうでもお話ししましたように、邑楽町公民館の耐震診断の結果を踏まえまして、ホールを備えた中央公民館の建設、または邑楽町公民館の改修改築を検討し、どこに何をどのように作り、どのように運営していくのか。また、中央公民館ができた場合の利用者へのサービスの向上と経費節減を目的として、現在の3つの公民館の運営方法をどのようにしていくかを検討したいと。検討していくために設置したいと思っております。

○相場一夫議長 横山議員。

○13番 横山英雄議員 そうすると、まだ海のものとも山のものともつかないと。石打の町営住宅、先ほど言いましたについては、基本設計までできたのが20年3月21日に答申をしてありますが、まだ実施をするとも言っていないのですから、これは中央公民館の建設等について検討を行うということですから、五、六年先なのですね。

○相場一夫議長 答弁は。

〔「要らないですよ」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 ほかに質疑ありませんか。

遠藤幸夫議員。

○2番 遠藤幸夫議員 何ページということではないのですが、先ほど中央公民館の第1次耐震診断のことが載っていましたが、基本的に耐震診断なのかこれが耐力度テストかな、検査かなという気もいたしますが、それとあわせて、現実に変危険なというのはほかにもありまして、例えば町民体育館がございます。これらについても、耐震診断をやってどの程度のものか確認する必要があるかなというふうに思います。今回出ていないのですが、ぜひそれらについても実施をしていただきたいなということと、それと高島幼稚園と長柄幼稚園については、耐震診断は終わっております。町のホームページにもその耐震力がI S値と言っていますけれども、0.3未満ということで、変危険だというようなことも出ておりますので、それらについて、ぜひ計画的な整備を、補強工事を進めていっていただきたいなと思います。ちょっとこの予算の中にはそれらが見えなかったものですから、これらについてお考えをお聞きしたいと思います。

○相場一夫議長 大拙生涯学習課長。

○大拙 一生涯学習課長 お答え申し上げます。

先ほど本年度の予算で公民館の耐震の診断を行うというわけでございます。それに基づきまして検討委員会に図ると。そういった部分もありますけれども、確かに町民体育館、武道館も古い施設でございますので、できれば時期を見て順次やっていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○相場一夫議長 河内学校教育課長。

○河内 登教育長職務代理者 学校教育課長 お答え申し上げます。

幼稚園関係の耐震補強ということでご質問でございます。議員がおっしゃるとおり計画的な整備をというふうに考えておりますが、限られた財源でございます。鋭意給食センターですとか、邑楽中学校のことは渡り廊下等実施設計を計上させていただいております。それらを含めた中で計画的に進めさせていただきたいというふうに考えておりますので、よろしくご理解をいただきたいと思っております。

○相場一夫議長 遠藤議員。

○2番 遠藤幸夫議員 そういうことで、施設もたくさんあります。維持管理するのも大変なわけですが、計画的にそれらを整備することで、そこを利用している皆さんも安心できるのではないかと。ということがありますので、1年でやれということではなくて、計画的な年次的に整備する計画を公表するなりするといいいのではないかなと思います。

次に、2点目ですけれども、これは168ページでございます。たしかこの改訂版ですか、この前

の予算には載っておりました中学生の国際交流事業の関係ですが、12回、平成8年からスタートしまして、実際は12回まで続いたわけでありまして、平成20年度と21年度は、それぞれの理由がありまして、中断をしたというようなお話を聞いておりますが、また今年新たに載っていたものが削除されてしまったということがあります。これらの目的についても、十分皆さんもご承知かとは思いますが、今回そのなくなってしまったということなのですが、実はこれは邑楽町中学生国際交流研修事業要綱というのがありますが、町長はこの要綱をご存じでしょうか。

○相場一夫議長 金子町長。

○金子正一町長 詳細についてはわかりませんが、そのようなことで国際交流委員会のほうで進めていただいているということは承知しております。

○相場一夫議長 遠藤議員。

○2番 遠藤幸夫議員 詳細がわからないということなのですが、実際はこれは主催は邑楽町なのですね。ややもするとすべて教育委員会のほうでやっているかなと思われている方もいるようですが、教育委員会は主管でありまして、主催は町ということになっております。そうした中で、今回その予算がなくなってしまったわけですが、先ほど言いましたこの要綱には、要綱の中でその派遣生徒数、それから引率者については、予算の定めるところによるということ、やったりやらなかったりという話ではないのですね。ですから、基本的にはやるということが大前提かなと思います。たまたま今回そういったことで削られてしまったわけですが、これを実際は12回継続するには、それなりのこちらの関係者も大変な苦勞をされて、またオーストラリアのほうの受け入れ校の学校も大変協力的であったという、そういった信頼関係を築いてきたわけですが、これでもう2回、ことしで3回目になりますと、それらの築いたものが失われてしまうということで、大きな損失になるかなと思います。先ほど来教育の機会均等というようなお話もありますが、これは町主催として積極的に国際感覚を身につけた生徒をこれからつくると。これは、別にここの要綱では中学生が対象ですが、国際化社会に対応する、また国際化を進めていく上でも、こういった事業というのは、細々とでも続けていくべきではないかなというふうに思いますし、またたくさんの保護者や生徒も期待をしているというお話を聞いております。これまで全体では約230人ぐらいの生徒が行ってしまして、それらの経験者は、大変この国際交流があったので、そういった英語が例えば好きになるとか、英語に関連した職業につくとかしている方もたくさんいると聞いておりますし、また大変活躍もしているということも考え合わせますと、こういった事業については、それこそハードからソフトへ、コンクリートから人へというようなこともありますので、こういったところについては、極力力を注いでいただきたいというふうに希望をして終わりにいたします。答えは結構です。

○相場一夫議長 ほかに質疑ありませんか。

進行してよろしいですね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

小島幸典議員。

〔10番 小島幸典議員登壇〕

○10番 小島幸典議員 平成22年度邑楽町一般会計予算の提出議案に賛成討論をいたします。

本予算は、町民の明日からの精神的及び経済的にかかわることであり、本予算歳入歳出それぞれ69億8,142万6,000円の議会での町長及び各担当課長の説明を理解し、税金を大切に使用することを望み、賛成するものであります。

以上です。

○相場一夫議長 ほかに討論は。

本間議員。

〔14番 本間恵治議員登壇〕

○14番 本間恵治議員 平成22年度邑楽町一般会計予算に対しまして反対の討論をいたします。

当初定例会において22年度の予算が可決されるわけでした。それがきょうの臨時会に至ったわけですけれども、過去さかのぼってみますと、議長からの通知をいただきました、財政調整基金の取り崩しについてということから始まりましたけれども、途中から国の補助が出たから結果的には取り崩さずに済みましたという形の中で今日を迎えました。その財政調整基金を取り崩すに至った経緯については、何ら私たちに知らされておりません。そして、国からの補助をいただいた中で何とか賄った予算でございます。それがしかも69億8,142万6,000円という膨大な予算を膨らませた金額でございます。その中で、町の税収を見ますと、おおむね35億、私はその自主財源を見たときに、やはり家庭で言えば自分の働いた所得の中ですべてを運営するのが本来のあり方だと思っています。しかしながら、地方交付税等ほかの財源に頼りながらの船出となります22年度の財政運営におきましては、私は決して計算どおりにいかないと思っています。私が反対討論をしたことが間違いであれば私はいいなというふうに思っておりますけれども、この予算を膨らませた中での船出は、私は後で後悔することがあるのではないかなと思っています。ですから、この私が言った反対の討論が間違いでありますようにお祈りしながら、私は反対の討論とさせていただきます。

○相場一夫議長 ほかに討論ありませんか。

小倉議員。

〔12番 小倉 修議員登壇〕

○12番 小倉 修議員 議案第33号 平成22年度邑楽町一般会計予算につきまして反対の討論を申し上げます。

施政方針の中でも自主財源、町税等の自主財源が大きく減額することが見込まれると。さまざま

な補助制度等を積極的に活用するなど、依存財源の確保に努力することです。自主財源が33、34、35億、そしてあと依存財源を中心とした中で69億何がしの予算を立てると。臨時財政対策債、交付金、そういったことしの7月の参議院選挙に合わせた中での依存財源を中心とした中での一般会計予算、私は少なくとも自分で働いて汗をかいた収入を中心に歳出を考えるべきだと。自分で働くことが基本でございます。鞍掛第一、第二工業団地、カルソニックの入っておる子々五の工業団地、すべて自主財源の中では今の皆様方の内容ではない。諸先輩方々の努力によって自主財源が生まれておると。当然のごとく自分で働いたもので財源を努力して組むのが当たり前だと。依存財源を中心として予算を立てたならば、必ず将来、近い将来です。末端市町村は大変な中に落ち込んでいくと。他の市町村、近隣でも財政危機突破計画と、大変人口の少ないところで収入が少ないのだから、支出を考えなければならぬと。当然の話ですよ。ほかから入るから、依存財源が入るから予算を使っていくべしと、それはおかしい。今後市町村、末端行政は必ず差ができる。私は何回も言っているけれども、邑楽町がよくても千代田がだめ。千代田がうんとよくなっても邑楽町がだめと。国に頼っては私はいけないと思います。やはりこれから自分で稼いで自分で汗かいたその収入によって予算を立てるべきだと。

よって、今回の予算につきましては、依存財源に頼った予算であると。将来邑楽町は、ほかの町村は上がっても邑楽町は下がると。だれが面倒見てくれましょう。自分の町は自分で守るのですよ。そういうときが来ているのです。今まではぼっとしていても、交付税やら何やらどんどん入ってきたのです。国が44兆円の国債発行した中で1,000兆円近い借金を抱えた中で、何を国に頼って生きていけるのでしょうか。町はもうちょっと足腰の強いしっかりとした予算を立てるべきだと思います。余り長くなるときょうが終わってしまうと大変ですから、このぐらいにしておきましょう。

よって、私は今回の22年度一般会計予算につきまして、反対いたします。

○相場一夫議長 ほかに討論ありませんか。

大野議員。

〔3番 大野貞夫議員登壇〕

○3番 大野貞夫議員 私、日本共産党町議会議員大野貞夫は、議案第33号 平成22年度邑楽町一般会計予算に対して反対の立場から討論を行います。

平成20年9月に端を発した世界同時経済不況は、新年度予算の編成の時期と重なり、大変苦慮されたことと推察をいたします。国の22年度予算編成において、生活者の暮らしの安心、金融経済の安定強化、地方の底力の発揮とうたっておりますが、地方の財政は厳しく、不況を反映して、法人町民税の落ち込みで町税全体の7.6%の減収、地方交付税を除く国からの交付金は、前年と同額もしくは減収が見込まれております。このような厳しい財政状況の中で、町消費生活センターを庁舎内に設置し、また一般住宅用太陽光発電の設置に対する補助事業の開始、温暖化対策としての緑のカーテンなどの調査研究、新規事業として、希望する町民の住宅などについての耐震相談の実施、

町内1,000カ所の農用地土壌分析を行い、農業者に対して土壌改良や肥料などの効果的な使用につながる情報提供など、また幹線25号線等について事業に取り組む等の新規事業は、評価することができます。

しかしながら、リストラなどによって職を失った中途退職者の雇用支援としての新規就農支援事業では、これといった財政的な裏づけが明確に示されていません。また、中学校の新入学時に必要な家庭の負担が1人当たり10万円以上もかかるのに、福祉の分野でも教育の分野でも負担軽減のための施策はなく、この不況化における町民の生活実態が明確に把握されていないことも明らかです。町営住宅130戸は、耐用年数が既に経過しているにもかかわらず、その修繕費用は21年度から22年度に至るも全く同額、わずか95万円の計上です。今日のこの経済不況の中であって、住むところも、また就職先もままならず、払いたい各種保険料、諸経費等も滞るなど、住民の命と暮らしは根本から脅かされております。こんなとき、まさによりどころとなるべき自治体は、本来の役割を発揮しなければなりません。こうした観点からすれば、今回の本予算は、それにふさわしい町民生活を支える内容の予算とは言いがたく、基本的には反対の立場からの討論といたします。

○相場一夫議長 ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 これにて討論を終結します。

これより議案第33号 平成22年度邑楽町一般会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○相場一夫議長 起立多数。

よって、議案第33号は原案のとおり可決されました。

◎日程第5 議案第34号 平成22年度邑楽町国民健康保険特別会計予算

○相場一夫議長 日程第5、議案第34号 平成22年度邑楽町国民健康保険特別会計予算を議題とします。

町長から提案理由の説明を求めます。

金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議案第34号 平成22年度邑楽町国民健康保険特別会計予算について提案理由の説明を申し上げます。

今回の予算の総額は、歳入歳出それぞれ29億489万7,000円といたしたい次第であります。

歳入については、国民健康保険税、国庫支出金、前期高齢者交付金等であり、歳出については、総務費、保険給付費及び後期高齢者支援金等であります。

なお、詳細につきましては、保険年金課長をして説明いたさせますので、よろしくご審議の上ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○相場一夫議長 岡山保険年金課長。

○岡山 均保険年金課長 それでは、平成22年度邑楽町国民健康保険特別会計予算の補足説明をさせていただきます。

内容につきましては、事項別明細書で説明をさせていただきますので、11ページ、12ページをお開きください。まず初めに、歳入につきまして説明をさせていただきます。

1 款国民健康保険税、1 項国民健康保険税、1 目、2 目合わせまして8 億8,030万5,000円を計上させていただきます。

13ページ、14ページをお願いいたします。3 款でございますが、国庫支出金、1 項国庫負担金7 億299万8,000円、2 項国庫補助金1 億2,600万1,000円を合わせまして合計8 億2,899万9,000円を計上させていただきます。

15ページ、16ページをお願いいたします。4 款でございますが、療養給付費交付金1 億6,200万1,000円、その下の5 款前期高齢者交付金3 億6,668万9,000円を計上させていただきます。

17ページ、18ページをお願いいたします。9 款でございますが、繰入金、1 項他会計繰入金、1 目一般会計繰入金352万9,000円増の1 億7,794万8,000円を計上させていただきます。

歳出につきまして、23ページ、24ページをお願いいたします。1 款総務費でございますが、1 項総務管理費、1 目、2 目合わせまして4,936万6,000円を計上させていただきます。人件費を含めました事務費等でございます。

25ページ、26ページをお願いいたします。2 款でございますが、保険給付費、1 項療養諸費、1 目から5 目までを合わせまして7,511万8,000円増の16億7,097万8,000円を計上させていただきます。保険給付費につきましては、1 項療養諸費から27ページの5 項葬祭諸費までの総額で18億5,475万3,000円を計上させていただきます。

27ページ、28ページをお願いいたします。下段でございますが、3 款後期高齢者支援金等、1 項後期高齢者支援金等につきましては、次の29ページの上段に記載がありますが、4 億1,307万5,000円を計上させていただきます。

6 款でございますが、下段になります。介護納付金といたしまして、1 項介護納付金1 億7,000万円を計上させていただきます。

7 款でございますが、共同事業拠出金につきましては、1 項共同事業拠出金、1 目高額医療費拠出金から、31ページに移りますが、4 目まで合わせまして3 億2,743万円を計上させていただきます。

中段になります。8 款保健事業費、1 項特定健康診査等事業費、1 目特定健康診査等事業費2,486万9,000円を計上させていただきます。主な内容といたしましては、特定健康診査に係る事

業費でございます。

以上でございます。よろしく願いをいたします。

○相場一夫議長 これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

小倉議員。

○12番 小倉 修議員 ただいま課長のほうから説明があったわけでございますけれども、罪の償いをできないままに、何か4月から人事の異動だというようなことも聞いておるわけでございますが、4月から担当なさる課長におかれましては、単純な事務的ミスを犯さないようにと、しっかりと国保のほうも後期高齢者のほうへとしっかりと考えて、単純なミスは犯さないように頑張ってください。返答は結構でございます。

○相場一夫議長 ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより議案第34号 平成22年度邑楽町国民健康保険特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○相場一夫議長 起立多数。

よって、議案第34号は原案のとおり可決されました。

◎日程第6 議案第35号 平成22年度邑楽町老人保健特別会計予算

○相場一夫議長 日程第6、議案第35号 平成22年度邑楽町老人保健特別会計予算を議題とします。

町長から提案理由の説明を求めます。

金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議案第35号 平成22年度邑楽町老人保健特別会計予算について提案理由の説明を申し上げます。

今回の予算の総額は、歳入歳出それぞれ29万4,000円といたしたい次第であります。

歳入については、支払基金交付金及び繰入金等であり、歳出については、総務費及び医療諸費であります。

なお、詳細については、保険年金課長をして説明いたさせますので、よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○相場一夫議長 岡山保険年金課長。

○岡山 均保険年金課長 引き続きまして、平成22年度邑楽町老人保健特別会計予算の補足説明をさせていただきます。

内容につきましては、事項別明細書で説明をさせていただきますので、7ページ、8ページをお願いいたします。

2としまして歳入でございますが、1款支払基金交付金、1項支払基金交付金、1目、2目合わせまして9万5,000円を計上させていただきました。

4款でございますが、繰入金、1項一般会計繰入金、1目一般会計繰入金につきましては、12万1,000円を計上させていただきました。

11ページ、12ページをお願いいたします。歳出でございます。2款医療諸費、1項医療諸費、1目から3目までの総額といたしまして、18万円を計上させていただきました。主に医療費の支払いに伴うものでございます。

なお、老人保健制度につきましては、平成19年度をもちまして終了し、平成23年3月31日までを経過措置期間と定めまして過年度分の残務整理を行っているものでございます。よろしくをお願いいたします。

以上でございます。

○相場一夫議長 これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより議案第35号 平成22年度邑楽町老人保健特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立全員〕

○相場一夫議長 起立全員。

よって、議案第35号は原案のとおり可決されました。

○相場一夫議長 日程第7、議案第36号 平成22年度邑楽町後期高齢者医療特別会計予算を議題とします。

町長から提案理由の説明を求めます。

金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議案第36号 平成22年度邑楽町後期高齢者医療特別会計予算について提案理由の説明を申し上げます。

今回の予算の総額は、歳入歳出それぞれ2億967万7,000円といたしたい次第であります。

歳入については、後期高齢者医療保険料及び繰入金等であり、歳出については、総務費及び後期高齢者医療広域連合納付金等であります。

なお、詳細につきましては、保険年金課長をして説明いたさせますので、よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○相場一夫議長 神山保険年金課長。

○神山 均保険年金課長 それでは、平成22年度邑楽町後期高齢者医療特別会計予算の補足説明をさせていただきます。

事項別明細書により説明をさせていただきますので、7ページ、8ページをお願いいたします。

歳入でございます1款後期高齢者医療保険料、1項後期高齢者医療保険料、1目特別徴収保険料、2目普通徴収保険料、合わせまして1億6,195万6,000円を計上させていただきました。群馬県後期高齢者医療広域連合の算定額をもとに予定をさせていただきました。

3款でございますが、繰入金、1項一般会計繰入金、1目、2目合わせまして4,771万2,000円を計上させていただきました。

11ページ、12ページをお願いをいたします。歳出でございます。2款でございますが、後期高齢者医療広域連合納付金、1項後期高齢者医療広域連合納付金、1目後期高齢者医療広域連合納付金につきましては、2億339万9,000円を計上させていただきました。

以上でございます。よろしくをお願いをいたします。

○相場一夫議長 これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより議案第36号 平成22年度邑楽町後期高齢者医療特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立多数〕

○相場一夫議長 起立多数。

よって、議案第36号は原案のとおり可決されました。

◎日程第8 議案第37号 平成22年度邑楽町介護保険特別会計予算

○相場一夫議長 日程第8、議案第37号 平成22年度邑楽町介護保険特別会計予算を議題とします。

町長から提案理由の説明を求めます。

金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議案第37号 平成22年度邑楽町介護保険特別会計予算について提案理由の説明を申し上げます。

今回の予算の総額は、歳入歳出それぞれ14億2,391万8,000円といたしたい次第であります。

歳入については、介護保険料、国庫支出金及び支払基金交付金等であり、歳出については、総務費及び保険給付費等であります。

なお、詳細につきましては、保険年金課長をして説明いたさせますので、よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○相場一夫議長 神山保険年金課長。

○神山 均保険年金課長 それでは、平成22年度邑楽町介護保険特別会計の補足説明をさせていただきます。

内容につきまして事項別明細書により説明をさせていただきますので、9ページ、10ページをお願いいたします。1款でございますが、介護保険料、1項介護保険料2億7,132万2,000円を計上させていただきました。

2款でございますが、国庫支出金、1項国庫負担金、2項国庫補助金、合わせまして3億2,379万4,000円を計上させていただきました。

11ページ、12ページをお願いいたします。3款でございますが、支払基金交付金、1項支払基金交付金につきましては、4億262万5,000円を計上させていただきました。

4款でございますが、県支出金、1項県負担金につきましては、1億8,722万8,000円を計上させていただきます。

13ページ、14ページをお願いいたします。中段の5款繰入金、1項でございますが、一般会計繰入金2億2,856万8,000円を計上させていただきました。

17ページ、18ページの歳出をお願いいたします。1款でございますが、総務費、1項総務管理

費から19ページでございしますが、5項運営協議会費まで合わせまして5,610万2,000円を計上させていただきました。こちらにつきましては、介護保険の事務費等として予定をさせていただきました。

21ページ、22ページをお願いをいたします。2款でございしますが、保険給付費、1項介護サービス等諸費12億1,276万4,000円を計上させていただきました。保険給付費の増加に伴いまして増額を予定をさせていただきました。

2款でございしますが、保険給付費、2項介護予防サービス等諸費でございしますが、23ページの中
段までとなっております。6,116万3,000円を計上をさせていただきました。

27ページ、28ページをお願いをいたします。5款でございしますが、地域支援事業費、1項介護予
防事業費1,333万8,000円。29ページに移りますが、2項包括的支援事業・任意事業費につきましては、2,351万7,000円をそれぞれ計上させていただきました。地域包括支援センターの事業費でござ
います。

以上でございします。よろしくをお願いをいたします。

○相場一夫議長 これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

本間議員。

〔14番 本間恵治議員登壇〕

○14番 本間恵治議員 議案第37号 平成22年度邑楽町介護保険特別会計予算につきまして賛成の討
論をさせていただきます。

歳入歳出それぞれ14億2,391万8,000円の大規模な予算となっておりますが、それぞれ等しく介護
保険料を払い、平等な立場で介護を受けられる、そういう制度であるべき姿でございしますけれども、
なかなか現実には難しい部分がございます。しかしながら、在宅で介護している人、施設で入所して
いる人、それぞれ立場は違いますけれども、平等な権利のもとに介護が受けられるのが当たり前の
ことだと私は思っております。そういう中で、一般会計より2億2,800万円ほどのお金が繰り入れ
られ、運営されているわけでございますけれども、平等な中で等しく介護が受けられるように切に
要望し、賛成の討論とさせていただきます。

○相場一夫議長 ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより議案第37号 平成22年度邑楽町介護保険特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立全員〕

○相場一夫議長 起立全員。

よって、議案第37号は原案のとおり可決されました。

◎日程第9 議案第38号 平成22年度邑楽町下水道事業特別会計予算

○相場一夫議長 日程第9、議案第38号 平成22年度邑楽町下水道事業特別会計予算を議題とします。

町長から提案理由の説明を求めます。

金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議案第38号 平成22年度邑楽町下水道事業特別会計予算について提案理由の説明を申し上げます。

今回の予算の総額は、歳入歳出それぞれ3億4,073万6,000円といたしたい次第であります。

歳入の主なものは、他会計繰入金等であり、歳出の主なものは、工事請負費及び公債費等であります。

なお、詳細につきましては、水道課長をして説明いたさせますので、よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○相場一夫議長 沼田水道課長。

○沼田正美水道課長 それでは、平成22年度邑楽町下水道事業特別会計予算の補足説明を申し上げます。

予算書の9ページ、10ページをお願いいたします。歳入についてご説明申し上げます。1款分担金及び負担金、1項負担金につきましては、前年度並みの954万円を予定させていただきました。

2款使用料及び手数料、1項使用料につきましては、前年度比214万2,000円増額の4,808万円を予定させていただきました。

3款国庫支出金、1項国庫補助金につきましては、前年度比100万円減額の3,700万円を予定させていただきました。

11ページ、12ページをお願いいたします。5款繰入金につきましては、前年度比33万7,000円増額の1億6,899万9,000円を予定させていただきました。繰入金の主な充当先は、公債費、職員人件費等でございます。

8款町債につきましては、前年度比1,760万円減額の7,700万円を予定させていただきました。減額となりましたのは、起債対象事業費の減額によるものでございます。

続きまして、13、14ページをお願いいたします。歳出についてご説明いたします。1款下水道費につきましては、前年度比537万円減額の2億962万3,000円を予定させていただきました。

主な内容につきましては、14ページをお願いいたします。15節工事請負費につきましては、前年度比550万円減額の1億200万円を予定させていただきました。工事の内訳につきましては、管渠工事といたしまして、前谷地区と前瀬戸宿地区の面整備を予定させていただきました。また、舗装復旧工事といたしまして、光善寺地区の工事を予定させていただきました。

続きまして、19節負担金補助及び交付金につきましては、前年度比12万5,000円減額の6,341万5,000円を予定させていただきました。主な内容につきましては、利根川左岸流域下水道建設負担金と、同じく水質浄化センターの維持管理負担金でございます。

15、16ページをお願いいたします。2款公債費につきましては、下水道整備事業債の償還元金及び利子といたしまして、前年度比1,068万円減額の1億3,101万3,000円を予定させていただきました。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○相場一夫議長 これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

岩崎議員。

〔8番 岩崎律夫議員登壇〕

○8番 岩崎律夫議員 議案第38号 平成22年度邑楽町下水道事業特別会計予算の賛成討論を行います。

公共下水道の整備も順調に進み、新たに6ヘクタールの供用開始区域の拡大を図り、112ヘクタールとする予定であり、関係者の協力のもと、排水設備接続も順調に進められております。本年度の予算総額は3億4,073万6,000円で、前年度に比べ4%の減となっております。歳入については町債の減額、歳出については経費の削減を図り、効率的な事業執行に努めていると認められます。厳しい財政状況の中ではありますが、さらなる創意工夫を重ね経費削減を図り、面的整備においても効率的な事業推進を図るよう期待しております。

また、施工に際しては説明会を開催し、受益者のご理解、ご協力をいただき、さらに効率的な事業執行に努めるよう要望し、本案に賛成するものでございます。

○相場一夫議長 ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより議案第38号 平成22年度邑楽町下水道事業特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立全員〕

○相場一夫議長 起立全員。

よって、議案第38号は原案のとおり可決されました。

◎日程第10 議案第39号 平成22年度邑楽町学校給食事業特別会計予算

○相場一夫議長 日程第10、議案第39号 平成22年度邑楽町学校給食事業特別会計予算を議題とします。

町長から提案理由の説明を求めます。

金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議案第39号 平成22年度邑楽町学校給食事業特別会計予算について提案理由の説明を申し上げます。

今回の予算の総額は、歳入歳出それぞれ2億3,683万8,000円といたしたい次第であります。

歳入の主なものは、学校給食費収入及び一般会計繰入金等であり、歳出の主なものは、職員人件費、管理運営事業費及び学校給食事業費等であります。

なお、詳細については、学校教育課長をして説明いたさせますので、よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○相場一夫議長 河内学校教育課長。

○河内 登教育長職務代理者 学校教育課長 平成22年度邑楽町学校給食事業特別会計予算の補足説明を申し上げます。

予算書の7ページ、8ページをお開きいただきたいと存じます。初めに、歳入につきましてご説明をさせていただきます。1款学校給食事業収入、1項事業収入につきましては、小中学校給食費、幼稚園給食費及びその他給食費収入として、1億3,795万9,000円を予定させていただきました。前年に比べ169万3,000円の減額計上でございます。児童生徒数の減によるものでございます。

続きまして、2款繰入金、1項一般会計繰入金につきましては、一般会計からの繰入金9,886万5,000円を予定させていただいたところでございます。前年度と比べまして373万2,000円の減でございます。

続きまして、3款諸収入につきましては、食用廃油処分収入1万3,000円、4款繰越金につきましては、1,000円を予定させていただきました。

続きまして、9ページ、10ページをお開きいただきたいと存じます。歳出でございます。1款学校給食センター費、1項学校給食センター費、1目の一般管理費でございますが、5,096万2,000円を計上させていただきました。前年に比べ97万3,000円の減額でございます。主な内容といたしま

しては、職員人件費の減額と学校給食センター建設準備費の計上をなくしたものでございます。

続きまして、2目の学校給食費につきましては、前年度と比べ446万8,000円減の1億8,527万6,000円を計上させていただきました。減額の主なものとしましては、燃料費、賄い材料費及び備品購入費が減額となったものでございます。

次の11ページ、12ページをお願いを申し上げます。2款予備費、1項予備費、1目の予備費につきましては、60万円を計上させていただきました。これは、不測の事態に迅速に対応するため計上させていただくものでございます。

以上でございます。よろしくをお願いを申し上げます。

○相場一夫議長 これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより議案第39号 平成22年度邑楽町学校給食事業特別会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立全員〕

○相場一夫議長 起立全員。

よって、議案第39号は原案のとおり可決されました。

◎日程第11 議案第40号 平成22年度邑楽町水道事業会計予算

○相場一夫議長 日程第11、議案第40号 平成22年度邑楽町水道事業会計予算を議題とします。

町長から提案理由の説明を求めます。

金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 議案第40号 平成22年度邑楽町水道事業会計予算について提案理由の説明を申し上げます。

今回の予算は、収益的収入については5億2,569万9,000円で、収益的支出については5億1,879万5,000円であります。また、資本的収入については5,344万3,000円で、資本的支出については2億8,811万4,000円といたしたい次第であります。

資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額2億3,467万1,000円については、当年度分損益勘

定留保資金等で補てんするものであります。

収益的収入の主なものは水道使用料であり、収益的支出の主なものは県水受水費等であります。

資本的収入の主なものは企業債であり、資本的支出の主なものは配水本管費であります。

なお、詳細については、水道課長をして説明いたさせますので、よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○相場一夫議長 沼田水道課長。

○沼田正美水道課長 平成22年度呂楽町水道事業会計の補足説明を申し上げます。

予算書の13、14ページをお願いいたします。収益的収入及び支出の3条予算でございます。初めに、収入についてご説明いたします。1款水道事業収益につきましては、前年度比801万円減額の5億2,569万9,000円を予定させていただきました。1項営業収益、1目給水収益につきましては、水道使用料と加入金でございます。水需要が減少傾向にあることから、前年度比812万円減額の5億402万8,000円を予定させていただきました。

3目その他営業収益につきましては、主に他会計からの負担金でございます。前年度比26万9,000円増額の2,059万2,000円を予定させていただきました。

15、16ページをお願いいたします。収益的支出でございます。1款水道事業費用につきましては、前年度比434万3,000円増額の5億1,879万5,000円を予定させていただきました。主な内容につきましては、1目原水及び浄水費の動力費2,787万3,000円は、水源及び浄水場の電気代等でございます。

薬品費2,891万8,000円は、滅菌用の薬品代でございます。

受水費1億9,683万4,000円は、県水の受水費でございます。前年度と同額でございます。

続きまして、19、20ページをお願いいたします。5目減価償却費1億4,772万9,000円につきましては、構築物や機械及び装置等の減価償却費として予定をさせていただきました。

2項営業外費用2,828万3,000円につきましては、企業債の支払利息等として予定をさせていただきました。

続きまして、21、22ページをお願いいたします。資本的収入及び支出の4条予算でございます。1款資本的収入につきましては、前年度比5,412万3,000円減額の5,344万3,000円を予定させていただきました。

1項企業債4,000万円につきましては、浄水場整備及び配水管布設等に係る企業債として予定をさせていただきました。

2項負担金1,344万3,000円につきましては、消火栓工事負担金、それから関連工事の負担金等といたしまして予定をさせていただきました。

支出に伴う不足額につきましては、損益勘定留保資金及び建設改良積立金等にて2億3,467万1,000円の補てんを予定させていただきました。

23、24ページをお願いいたします。資本的支出でございます。1款資本的支出につきましては、

前年度比8,970万6,000円減額の2億8,811万4,000円を予定させていただきました。1項建設改良費、1目配水管布設費につきましては、石綿管改修及び鶉区画整理事業の関連工事等の費用といたしまして、9,301万7,000円を予定させていただきました。

同じく3目浄水場整備費につきましては、中野浄水場ろ過機及び第3浄水場第6水源の改修工事費用といたしまして、5,032万8,000円を予定させていただきました。

2項企業債償還金1億2,993万7,000円につきましては、企業債元金の償還金として予定をさせていただきます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○相場一夫議長 これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 質疑なしと認めます。

これにて質疑を終結します。

これより討論に入ります。

岩崎議員。

〔8番 岩崎律夫議員登壇〕

○8番 岩崎律夫議員 議案第40号 平成22年度邑楽町水道事業会計予算について賛成討論を行います。

水道事業は、安全な水を常に安定して供給するとともに、町民の健康や生活に直接かかわる重要な事業であります。収益的収支においては、一般家庭の節水型生活様式の定着などにより、水需要は年々減少している中、214万円ほどの利益を計上していることは、経営努力がうかがえます。資本的収支においては、石綿管の改修工事や中野浄水場のろ過機及び第3浄水場第6水源の改修工事に取り組んだ結果、不足額が生じ、損益勘定留保資金や建設改良積立金等により補てんを行っておりますが、これは効率的投資に努めた結果と認められます。厳しい経営環境の中ではありますが、効率的な事業執行や経費の削減に努め、安定経営に向けてさらなる努力をするよう要望し、本案に賛成するものであります。

○相場一夫議長 ほかに討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○相場一夫議長 討論なしと認めます。

これにて討論を終結します。

これより議案第40号 平成22年度邑楽町水道事業会計予算を採決します。

本案は原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔起立全員〕

○相場一夫議長 起立全員。

よって、議案第40号は原案のとおり可決されました。

◎町長のあいさつ

○相場一夫議長 以上をもちまして、本臨時会の日程は全部終了しました。

閉会に当たり、町長から発言の申し出がありますので、許可します。

金子町長。

〔金子正一町長登壇〕

○金子正一町長 第1回臨時会の閉会に当たりまして一言御礼を申し上げます。

平成22年度一般会計予算、各特別会計予算につきましてご審議をいただきました。提案をいたしました各予算について可決いただきましてありがとうございます。議員各位におかれましては、今後健康に十分注意され、ご活躍をご期待申し上げ、御礼の言葉といたします。

大変ありがとうございました。

〔「おわびは」と呼ぶ者あり〕

○金子正一町長 大変失礼しました。

今臨時会では、大変議員の皆さんにご迷惑をおかけいたしまして、申しわけありませんでした。

以上でございます。

◎閉会の宣告

○相場一夫議長 以上で、平成22年第1回邑楽町議会臨時会を閉会します。

ご協力ありがとうございました。

〔午後10時30分 閉会〕